

**第68号**  
 発行日:令和3年5月1日  
 発行所:東京青山同窓会事務局  
 〒111-0032  
 東京都台東区浅草 3-8-2-1101  
 工藤 義夫 (74回)  
 e-mail:info@tokyo-aoyama.org  
 TEL:090-1704-2413  
 HP:https://www.tokyo-aoyama.org/  
 発行者 日下部朋子 (82回)

# 東京会報

## 東京青山同窓会

—東京青山同窓会年間維持費—  
 1口1,000円/2口以上(年間)  
 会計幹事:川上康夫(79回)  
 高山佳郎(83回)  
 振込先:極力①でお願いします。  
 ①郵便振込口座 00150-9-4074  
 加入者名 東京青山同窓会  
 ②三井住友銀行京橋支店 普 8430640  
 東京青山同窓会 会計幹事 川上康夫

**東京会長 挨拶**  
 佐藤 信秋 (74期)



昨年来のコロナ禍のもとで、会員各位には如何お過ごしでしょうか。

この原稿執筆時点では、緊急事態宣言は解除されましたが、未だ十分な抑制的行動が重要な段階で、気を緩めている訳にはいきません。医療従事者へのワクチン接種が始まりましたが、やはり十分なワクチンが一般にゆきわたり、集団免疫が、早く獲得されるように、国をあげて、皆で努力しなければいけませんね。

そうした中で明るい話題として、オリンピック・パラリンピックの聖火リレーが始まりました。残念ながら海外からのお客様をお招きすることはできなくなりましたが、世界ごぞつてこのパンデミックと戦いながら、平和の祭典として聖火のもとで競い合う。このことを人類の英知の表われとして、誇りを持って実行したいものです。

ステイホームで家族揃って、或は一人でゆっくりと、テレビで同時にいくつもの世界一を競う競技を観戦する。それもまた素晴らしいひとときとして皆で盛り上がりようではありませんか。… 2021.3.25 寄稿 …

## 百年に1度の試練 ; 2020年× ~ 2021年? ~次??



同窓会で  
“ますらお  
を叫ぶ”  
まだ

◆東京同窓会は不滅です◆  
 <東京会発足から56年>  
 去年の128期生  
 会えず!  
 今年の129期生  
 まだ??  
 (来年の130期生)  
 ?  
 ◆コロナ開けまで待って◆



Sustainable “Dosokai” Goals  
 → SURVIVALへ  
 持続可能な【同窓会】の未来  
 ↓↓↓  
 ~コロナ禍を「サバイバル」~  
 リアルに会える日まで



## 総会 & 歓迎会 ; (2020年コロナで中止) → 2021年もまだまだ 難しい! ? みなさんサバイバルして … リアルに会える日を、待ちましょう!!

**2020.11.28(土) ミニ総会幹事会を敢行**

マスク着/飲食無/短時間/ノー密で

ホスバスあたりで  
今度は無事を!

◀2020年度・東京青山(縮小)総会・幹事会 ; 議事録▶

- ・挨拶:佐藤茂・副会長 今年はコロナ禍で諸行事取止めに。
- ・会務報告:工藤義夫事務局長/会報通常通り、リアル会無。
- ・会計報告:状況<会計担当追加:川上康夫+高山佳郎83期>
- ・人事:副会長1名交替…池一(74期)→大滝均(74期)

・今後の予定;21年度の総会・新人歓迎会は“未定”  
 <総会予定 ; 6月19日(土)昼・90期主催>  
 <他;偶数月第2火曜の会、11月ますらお会未定>

・会運営状況予測  
 <年会費;高齢世代漸減、壮青年会員も減少>  
 <会報郵送減少 → いずれはデジタル化へ>  
 <今後の総会主催は各卒期毎順次実施、次回90期~>

◆ 創立130周年;2022年…会報に有志の投稿を募集。以上

青山

2022年は、創立

130年

青陵

<会計担当:川上康夫(79期)> 年会費2千円の納付先  
 ①郵貯銀行 ; 00150-9-4074 または  
 ②三井住友銀行京橋支店・普通 8430640

**問合せ**  
 <事務担当> ~ よろずご連絡など ~  
 事務局長 ; 工藤義夫(74期) 090-1704-2413  
 info@tokyo-aoyama.org / plutarchoshannibal@yahoo.co.jp

## 来年・2022年は <母校創立130周年> … 三世紀に亘って!

<創立>  
1892(M25)



♪青陵♪  
(中学校歌;1922)

1954(S29)焼失  
↓ 同年  
青山同窓会発足  
↓<1~4期工事>  
1960(S35)完工



♪女子入学♪  
(1950年; 61期・数名)

<現校舎>  
1999年~  
(平成11)



未来へ

男女比;半々  
全県一区



# “2021年・報道等に見る「青山ゆかりの方」” <前編◆2>

編集:工藤義夫(事務局)

## 「火坂雅志・急逝」による未完の大作完結 … 奇跡の作品を生み出した伊東潤の覚悟

2020/12/8(火) 18:00 AERA dot

火坂雅志氏と伊東潤氏の共作による長編歴史小説『北条五代』が発売となった。NHK大河ドラマ原作ともなった『天地人』などで知られる火坂氏が、2015年に急逝したために未完となった作品を、伊東氏が引き継いで完結させたものである。

<故・火坂雅志>  
青山83期



<伊東 潤>



亡くなった作家の未完作品を別の作家が書き継いで完成させるケースは極めて珍しい。『北条五代』は、初代・早雲から最後の五代・氏直に至る100年に及ぶ北条氏の興亡を描いた大河巨篇。北条五代に涉る歴史を描いた作品は、おそらく初めてだろう。文芸評論家の菊池仁氏からは、「火坂さんと伊東さんの執筆魂が宿ったような迫真の出来。これを快拳といわずして何を快拳なのか」同じく末國善己氏からは、「本作品には、日本の閉塞感を打ち破り、未来を切り開くためのメッセージに満ちている」と、高い評価を得ている。どんな思いで書かれたのか。伊東氏が執筆にいたる経緯と本作に込めた想いを聞くと、縦横に語りつくしてくれた。

### ◆いよいよ大作『北条五代』が発刊されますね。今のお気持ちをお聞かせ下さい◆

故火坂雅志氏の執筆開始から10年余、私が第二部を引き受けてから5年余という長いプロジェクトになりました。私の担当部分だけでも、これほど長い小説を書いたことがなかったもので、まさに未知の領域でした。しかも火坂さんの後を引き継ぐというプレッシャーも相当ありました。

それでも何とか完成に漕ぎ着け、こうして発刊できることは無上の喜びです。手前味噌ですが、天の火坂さんも喜んでいてのではないかと思います。この作品を機に歴史小説全体が脚光を浴び、火坂さんの諸作品も再評価されることを祈っています。

### ◆執筆のきっかけは何だったんですか◆

版元の朝日新聞出版からは『江戸を造った男』を出していたので、その時の打ち合わせで、私が「火坂さんの欄筆は残念だ」と話したところ、たまたま私の担当編集が火坂さんの担当もやっていたので、その無念の思いを聞きました。それで、どちらともなく「引き継いで書いたらどうか」という案が出て、とんとん拍子に決まったのです。

### ◆故人の欄筆を引き継いで書くというのは珍しいのでは◆

前例を調べたのですが皆無に近いですね。お亡くなりになった方の後を生存者が引き継ぐという例は、極めて少ないようです。『北条五代』の特徴は、火坂さんが初代早雲、二代氏綱、そして三代氏康の登場までを書き終わっていたので、文字通り「書き継ぐ」ことになった点ですね。すなわち故人の遺稿を後進が引き継ぐという真正銘の「リレー小説」になったと思います。

### ◆やりにくいことはありませんでしたか◆

全くありませんでした。北条氏は手の内の題材なので(笑)。とくに三代氏康のパートは多少なりとも火坂さんの構想メモが残っていたので、それを生かしました。登場する人物も、できる限り火坂さんが造形したキャラクターを使いました。四代氏政以降になるとメモもなかったので、自由に書き進めました。

### ◆たいへんだったことはありますか◆

なかったですね。手慣れた題材だったので、執筆のモチベーションを保つのは大変でした。何度も歩いた道をもう一度歩くような感覚ですね。すでに私には、『黎明に起つ』以外にも、多くの北条氏関連作品がありますから。ただし最新情報をアップデートするという意味で、今回はよかったです。勉強の直しです。歴史は新事実の発見の連続ですからね。

### ◆どうして北条氏が好きなのですか◆

専門なので好き嫌いでは仕事をしません。北条氏に鉱脈を発見したので、サーガ化するほど書き続けています。鉱脈とは、誰も踏み入ったことのない未知の領域という意味です。私がデビューした2007年当時、武田信玄や上杉謙信の小説は数多くあれど、北条氏を描いたメジャーな小説はほとんどありませんでした。せいぜい司馬遼太郎の『箱根の坂』(講談社文庫)くらいでした。北条五代の歴史は面白く「どうしてだろう」と思っていたくらいです。それで北条氏を基軸にして自分の領域を広げていこうと思いました。このあたりはコンサル時代に培った事業拡大計画と変わりません(笑)。そんな経緯から、北条氏をサーガとして描き始め、その集大成的作品が『北条五代』になります。今は、当初の構想をよくぞここまで成長させたと思います。

### ◆多くの北条氏関連作品を手掛けましたが、どういう順で読むのがよいのでしょうか◆

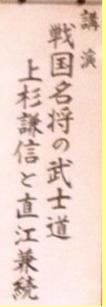
今回、『北条五代』というサーガの基軸となる作品が上梓され、まずそれから読んでほしいですね。続いて五代の流れを掴んでほしいので、実録本『戦国北条記』(PHP文芸文庫)をお読み下さい。「逆の方がいいんじゃないか」と思う方がいるかもしれませんが、さすがに最初から実録本はハードルが高いので、小説から入った方がよいと思います。実録本には、板嶋恒明氏と共著『北条氏康 関東に王道楽土を築いた男』(PHP新書)もあり、余裕があればそちらも目を通して下さい。『戦国北条記』との重複はさほどありません。続いて火坂さんの早雲像と私の早雲像の違いを知っていただくため、『黎明に起つ』と『疾き雲のごとく』(講談社文庫)をお読み下さい。『黎明に起つ』は早雲視点で描いた下代記。『疾き雲のごとく』は早雲に関わった人物の視点から描いた連作短編集です。以降は時系列に沿って自由に読み進めればと思います。

### ◆◆火坂氏への思いと『北条五代』にかける覚悟を、伊東氏のエッセイ「衣鉢を継ぐ」から読み取っていただきたい◆◆

火坂さんのご自宅からは相模湾が臨める。執筆に疲れた時、大好きな日本酒を飲みながら、火坂さんがあの海を眺めていたと思うと、感慨深いものがある。8年ほど前に某画伯の旧宅があった土地の一部を買い取り、改築したというその邸宅は、落ち着いた佇まいの住み心地のよさそうな家だった。執筆機の後ろには広い書庫があり、そこには大量の書籍が、生前と変わらず並べられていた。それを調べつつ執筆する火坂さんの姿が、目に浮かぶようである。火坂さんは2015年2月、急性膵炎でお亡くなりになられた。享年は58。奇跡的に病状が好転し、退院の予定日まで決まっていたさなかに突然、訪れた死だった。後には奥様が残された。その悲しみを書きつづけるのは、私の筆の及ぶところではない。ただ、お二人がいかに仲睦まじかったかは、火坂さんの手書き原稿を、奥様がすべて清書していた一事からでも推し量れると思う。火坂さんは、愛してやまない奥様と閑静なご自宅、そして膨大な作品群を残し、この世から足早に去っていった。残された作品群は火坂さんの確かな足跡であり、いつまでも読み継がれていくべきものである。私も多数の火坂作品を読んできた。その作品個々の素晴らしさを語るのには別の機会に譲るが、火坂さんは故山本兼一さん同様、わたしたち後進の目指すべき高峰だった。その流麗な文章で書かれた作品群は、どれも面白いのはもちろん、凜としたさわやかに溢れており、まさに王道を往く作家としての風格が漂っていた。

\*\*\*\*\*

◆火坂 雅志 氏 (本名:中川)  
 青山83期 ; 歴史小説家、  
 「天地人」で中山義秀文学賞、  
 2009年NHK大河ドラマ化。  
 2015年58歳で歿。  
 ◆2008東京青山・新人歓迎会にて講演。  
 <戦国武将の武士道～上杉謙信と直江兼続>



“創立130周年”に寄せて～寄稿・新潟の思い出①～ 井上菊雄(56期) ほか3名～

**新潟を遠く望めば  
思い出ばかり  
少年の日々は  
帰らない**

◆井上菊雄  
◆青山五十六期◆

読売新聞社社友。 福岡三田会、  
福岡広告協会会友、 慶応義塾社中、  
新潟長善寺檀家

新潟恋しや白山さまの  
松が見えます。 ホノボノと  
海は荒波。 むじろは佐渡よ  
花は越後の雪椿

アポリネールはいった  
ミラボー橋の下をセー又は流れる  
時は過ぎ わが恋も流れる

父の地口が思い出される  
万代橋の下を、信濃川は流れる  
大根の葉っぱも流れる  
かけ声ばかりだ菜っぱのこやしは

千曲川は川中島をすぎ  
越後に入ると信濃川と名を変える  
蒲原平野のトヤノガタもニイガタも  
信州の山野が流れてきて出来た  
小千谷の発電所は東京の  
山手線を動かしている

弥彦山は姫路の雪彦山、  
福岡の英彦山と三彦山と云われ  
出雲のスサノオを祭っている

ヒコは男ヒメは女でヒミコは日の御子  
ヤマタイ国は九州のイトにあり  
神武は東征し  
奈良のナガスネヒコをうった  
あとに残った渡来の人々は倭といわれ  
漢から金印をもらった

昭和25年ゼイゼイと煙をはく  
デコイチに乗って東京をめざした  
田中角栄のように八時間もかかった  
同窓会に顔を出す。 斉藤英四郎  
会長が昔、帝大受験の時は  
信越も上越もなく磐越を乗り  
継いで十六時間もかかったよ  
上野はすすり  
暗かったと笑った

東京は銀座も浅草も まだ一面焼け  
野原で、牛込の神楽坂の伯父の  
家へは、口道二をのぼっていった  
ウラに物理学校の灯がみえた  
(注：現・東京理科大学)

明治の末 新潟に帰省して伯父は  
新潟中学に一高ブームを起こした  
その中の一人 田中耕太郎は岡山  
中学に転校したが、一高に入り  
のちに文部大臣になった

新潟中学の思い出は松林とアカシア  
の白い花の匂いと、グミの赤い実と  
その先の砂浜とその又先の  
日本海だけだ  
冬の夜半町が寝静まると轟々と  
海鳴りが聞こえた

横田めぐみさんの新潟小学校も  
寄居中学校も、父親の日銀の  
社宅からも、北朝鮮は見えない

昭和二十年八月学徒動員で  
山ノ下の石井精密で魚雷をつくって  
いたが中学の陸軍の曙部隊の本部  
から新潟市の全市民はただちに  
20キロの郊外に避難しろという  
よくわからない命令が出た

アメリカのB29のまいたビラに新潟  
ほか5都市に広島長崎と同じ新型  
爆弾を落とすと あったという  
私は母と弟と白根の桃農家へ野菜舟  
にのって疎開した 祖母は五泉へ  
行った。そしてここでラジオに耳を  
傾け戦争に負けたことを知った

熱い真青な空に赤トンボが一機飛ん  
できて絶対に降伏しないとビラを  
まいたが、誰も動けなかった

工場も学校も 誰もいなくなったが  
一面の田んぼは変わらず青々と  
実り、白砂青松の新潟の海は  
果てしなく広く、日がたつと  
少しづつ、いやされてやはり  
新しい生き方をさぐるなければ  
と思うようになった

それからの七十年は夢の又夢であったが  
木枯らし一号が今日吹いた  
国字で風と書く、風の通る山の頂も  
山の上下と書いて 峠 とよむ

木々の青葉は紅葉になり枯葉となつて  
地に落ちもとの木に戻る  
学が成らずとも  
故郷は帰るところか

昔 中国の長江の川口の、カボトと  
リウウシヨに行つたことがあつた  
そこでは、五千年の昔からずっと  
変わらず、川の水を引き  
水田をつくつて稲を育てていた  
桑を植えカイコから絹をつむ  
いでいた、茶も植えて  
アゼには枝豆が実っていた

昭和十八年、中学に入ると、週に2回  
軍事教練があり、退役中尉が  
日露戦争で使つた古い38式  
歩兵銃の打ち方、銃剣のつけ方  
を教え、月末には  
行軍してハンゴウで炊飯をした  
秋には農民が出征してない  
農家の稲刈り、ハサ掛けをした

今年にはコロナ感染でどこへも行けない  
日本は島国なので、文明は海外  
からくる、ニライカナイ、といつて  
西は極楽浄土、食料も宗教も  
くるがよいことばかりでなく  
病いしもくるのだ

ペリリは、黒船に銃と病気の水兵を  
乗せていた、江戸の人々は  
地震、火事、洪水より、コレラ  
の方が怖いといつた

田植えはすれど稲刈りなし  
田圃でおぼれた”など  
蒲原平野は、三年一度  
キキンがあり、来年の田植え  
のために、娘を売つた

衛生が悪くメクラが多く、男は三助  
女はゴゼになり三味線をひいた  
江戸の遊女は良寛が手マリを  
ついで遊んだ女の子たちで  
吉原では自殺しないと  
宿主に人気が高かつた  
死んで、親や寺に申し訳ないと  
苦しくてもじつと我慢したからだ

地震と大火で生まれた家はもうない  
“橋々、柳、桜かな”とうたわれた  
八千八川もない

アガサ・クリステイは、そして誰も  
いなくなつた”という小説を書いた  
今かりむいてもうしるには誰もいない  
世阿弥は能の最後にも書いてある  
行方もしるすなりにけり”と  
老子の道教には、墓はいらない”とある  
死はやはり虚しい

★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★  
納谷喜郎 ～59期～  
59回の劣等生の思い出であります。  
英語の川口宏先生は、名指しされはし  
ないかと、ビクビクしている劣等生を  
も萬遍なく指して下さいました。おそ  
らくその時も、そして現在でも有り難  
く思っております。お蔭で不思議に英  
語が好きになり、ひいてはドイツ語まで  
も好きになり、専門誌の購読が役に  
立つております。どうか先生方、劣等生  
でも萬遍なく名指しして下さい。劣等  
生もそれを秘かに感謝していることで  
ありますよ。

★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★  
上村嶺子 ～68期～  
高校時代の思い出を一つ挙げるとし  
たら、美ヶ原高原旅行です。高1の夏休

み、1年から3年の数十名  
と参加で、山登り。景色も  
素晴らしく、先輩の話も  
勉強になり、忘れられな  
い楽しい時間でした。

★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★  
阿部緑生 ～76期～  
130周年に向けて、寄  
稿。16才からの3年間、お  
世話になった高校生活に  
心より御礼を申し上げます。  
新潟高校では、自分の  
能力にガツカリすることは  
かりでした。しかし、今は  
その助けになったのかも知  
れないと思っております。  
何よりも、3年間放つてお  
いてくれた事が良かった。  
3年担当の大橋禎助先生  
(数学)の、全く指示の無い  
進路指導に感謝申し上げ  
ます。英語の高橋、満先生  
の、試験の後の、ポンス  
ケという具体的意味の無い  
叱責をいくつ頂戴したこ  
とが……。しかしその10年  
後にニューヨーク州の公務  
員(研究者)になって英語  
論文を書くようになって  
居たなんて、私だつて信じ  
られません。

新潟高校とその先生方に  
は、その 放し飼いの方針に  
に感謝して、失礼ながら、プ  
ラスマイナス評価をすれば、  
最終的に「平1」。今年70  
才になってみて、その新潟  
高校と先生方に心より感  
謝申し上げます。有り難  
うございました。

青山76回卒 阿部緑生  
(笛吹中央病院医師)  
福島県立医科大学卒)

新潟高校とその先生方に  
は、その 放し飼いの方針に  
に感謝して、失礼ながら、プ  
ラスマイナス評価をすれば、  
最終的に「平1」。今年70  
才になってみて、その新潟  
高校と先生方に心より感  
謝申し上げます。有り難  
うございました。



# “2021年・報道等に見る「青山ゆかりの方」” <中編◆2>

編集：工藤義夫(事務局)

## 「NHKスペシャル・パンデミック激動の世界」が伝える社会への視座 <大越健介キャスターインタビュー>

2020/12/6(日) ザ・テレビジョン

(大越健介 : 青山88期)



\*\*\*\*\*

新型コロナウイルスの感染爆発により、変革を迫られている日本

そして世界。NHKでは、8月以降、進行する危機と向き合いながら未来を展望するシリーズ「NHKスペシャル パンデミック 激動の世界」を放送している。12月6日(日)には第5回「コロナ禍 米中 新たな“冷戦”」、20日(日)に第6回「科学立国ニッポンの危機」を放送。コロナ禍が長期化する中で同シリーズを制作・放送する狙いと番組が目指すものについて、取材を担当する大越健介キャスター、三村忠史チーフプロデューサーに話を聞いた。

### 「パンデミック 激動の世界」シリーズ放送の狙いについてお聞かせください

◆三村忠史チーフプロデューサー：番組は新型コロナウイルスの出現によってあらわになった国内・世界の課題をさまざまな角度から検証する大型シリーズです。夏から4回放送しています。NHKスペシャルの大型企画は、1年ないし2年の準備期間を経て放送することがほとんどですが、このシリーズはまさに今ここにあら危機を記録しながら過去を検証し、未来を俯瞰していくものになっています。目の前にあるものを記録してコンテンツに含んでいくスタイルも番組の特長としながら、今後回を重ねていきたいと思っています。

◆大越健介キャスター：新型コロナウイルスの感染拡大について番組化の話が出た春の終わりが夏の初め頃は、プロデューサーをはじめ、「アフター・パンデミック」というタイトルを考えていました。しかし現実、その言葉とそぐわなくなってきました。このパンデミックとは長く付き合わなくてはならない。向き合いながらしっかりと検証することで、アフター・パンデミックの世界も見えてくるのではないかと考えています。感染拡大が社会に大きな影響を及ぼしていますが、光の当て方によって本当にいろんなものが見えてくると思うので、日々の取材を通して実感しております。走りながらの取材ですが、現状に、かつ将来に向けてできるだけ多くのことを指し示す番組にしよう、日々奮闘しています。この番組によって、必ずしも一つの答えが出るわけではないと思いますが、視聴者のみなさんが未来に目を向け、たくさんのことを考えられる材料を含む番組を目指していきたいです。

### 「コロナ第3波も拡大する中、現場取材にも影響が出ていますか？ 第3回「停滞か変革か 岐路に立つグローバル資本主義」ではデジタル・トランスフォーメーション(DX)の必要を伝えていましたが、取材にも求められていますか？」

◆三村：第1・2回については本当に緊急でしたので、制作上の都合で大越さんの取材機会を作ることができませんでした。第5回では、台湾に行っていたことを模索しましたが、行って2週間・帰って2週間という期間、大越さんを離しておくわけにはいかないの、リモート取材になりました。第6回は、感染対策を十二分にしながらなるべく多くの研究室などに足を運び、現場で考察していただきたいと思っています。

◆大越：本当は全ての現場に、セルビアでもブラジルでも行きたいですけど、今はそれが許されない状況です。それぞれの現地のスタッフが取ってくれた素材を、一生懸命編集しています。第4回(「問い直される“あなたの仕事”」)で、ライフスタイル、ワークスタイルの変化という内容をお伝

えしましたが、私も一人のサラリーマンとして通勤がままならず、リモートワークをするようになり、そんな中でKDDIの研修に参加して、見えてくるものがありました。

実際にインタビューを行うと、デジタルの力をもてすごく感じます。海外出張に行かなくても取材ができるのではないかと。DXという概念はもちろんこれだけではないと思いますが、デジタルでできるものはどんどん代替されていくことを取材現場でも実感しています。リモート越しであっても通じ合えるところはあのではないかと。これまでいろんな方と会って来て、初めてのインタビューではない方もいらつしやるので、一回目以上に今回は突っ込んで聞けたという部分もあります。それも一つの現場感かなと思います。現場にはいけなくても、臨場感をもって取材をするという方針は変わっていません。

◆三村CP：捕捉しますと、リモート取材ではなかなか本音を聞き出せないという風に当初は思っていました。第5回で大越キャスターが話を聞いた方々は、みなさんが本音で話してくださっているんですね。デジタル取材の環境に先方が慣れているのか、逆に話しやすい側面もあるのか、驚くような米中の本音を語っていただいているので、楽しみにしていただければと思います。

### 「12月6日放送の「コロナ禍 米中 新たな冷戦」はどんな内容になるでしょうか。」

◆三村：基本的に、米中対立を見ていきます。念頭においているのは、国際秩序がどう変わっていくのかということ。米中が直接しのぎを削り合う現場だけではなく、影響を受けているセルビア、香港、渦中になろうとしている台湾、日本も含めて見つめます。米ソ冷戦期のようにイデオロギーで分かれているわけではない、この世界がどうなっていくのかという現場にカメラを据え、その変化を記録します。巨視的な観点では、大越キャスターがマハティールさんにインタビューをするなど、識者や当事者に展望していただくという形を取っています。

◆大越：アメリカと中国のせめぎ合いはいろんなメディアで取り上げられています。先日米中がアジアの海で、あるいは日本の領海において、非常に緊張した状態にあるということが伝えられました。が、中国という日本の隣人が大きな力を付けているのは間違いない。これまで唯一の超大国と呼ばれていたアメリカが危機感を持つようになり、その状況に我々はどうマネージメントするのか。米中という大国が緊張してお互いに向き合うことを必然として見ながら、具体的にどんな問題に備えなければいけないのか、融和の方に解消するという考えはあり得るのか、といったいろんな問かけをするのが私の役割だと思っています。



そのインタビューの相手として、マレーシアのマハティール前首相、あるいは中国の「環球時報」胡錫進(コ・ジャクシン)編集長、台湾の蔡英文総統のブレーンで、日本では内閣官房副長官をこの前まで務めていた姚人多さん、アメリカはクリントン政権時代の国防次官補グレアム・アリソンさん、そしてイアン・ブレマーさんという国際政治学者に話を聞いています。ステレオタイプの米中対立ではなく、それぞれが抱える本音の部分を、じっくりと聞き出す作業をしている最中です。

米中がしのぎを削り、それが先鋭化していくというのは予測できたことではありませんが、このパンデミックによって大きく加速した。加速した分、その後の世界にどんな風に影響を及ぼしていくのかということ、現在進行形を取材しながら、将来を展望するような番組作りには奔走しています。

### 「マハティール前首相を取材対象とした理由をお聞かせください。」

◆三村：マハティールさんは、つい最近、94歳までマレーシアのトップを務められていました。アメリカや中国などさまざまな大国に対して、マレーシアという決して大きくない国で、非常に難しい国際政治の舵取りを平和に遂行されてきた。その国際政治を知り尽くした方に今後の世界の行方を語っていただきたいというのが、選択理由です。

### 「何か日本への提言のようなものは得られましたか？」

◆大越：詳しくは番組の中で紹介できたらと思いますが、日本の立ち位置は、アメリカと中国の間の緊張感が力をもって向いてくるところにあり、緩衝地帯でもあり、アメリカ的な民主主義と、中国の大国主義、日本は両方の肌触りが分かるころがあります。マハティールさんは、中国という国の成長をまざまざと見てこられた。それは日本も同じですが、中国は抑圧的だ、拡張主義を取っているという言葉で片付けがちなところは別の視座をお持ちです。大きく台頭してきた中国との向き合い方において何が大事なのか、根源的なことを考えられている。日本もその意味では今大事なポジションだ、と話していました。

### 「イアン・ブレマーさんの視点はいかがでしたか？」

◆大越：ブレマーさんには、10年前にインタビューをしまして。当時、アメリカを中心とした西側諸国が主導する世界が、冷戦終結後はほぼ形作られていた中で、アメリカは中心的指導力をこれからどんどん失っていくのではないかと、そうすると“指導者なき世界”というカオスになっていくのではないかと、ということ「Gゼロ」という言葉を用いて提唱していました。それが非常に新鮮だったのでロンドンまで追いかけて取材しました。以来、日米関係やアメリカが絡むような問題に関して、何度かインタビューをしています。今回、彼は、Gゼロはとくに到来したと考えていました。Gゼロが到来したカオス状況に加え、テクノロジーの世界で中国とアメリカが技術覇権の争いを展開する中で、これからうまくマネージメントしていかなければいけない、という視点で話してくれています。

### 「そこに米大統領選の影響はあるでしょうか？」

大越：アメリカ大統領選挙の影響はとても大きいと思います。選挙を通じてアメリカはものすごく二極化しました。ものすごく分断された影響はこれからずっと続くでしょう。

アメリカは、United Statesというように、Unitedを常に唱えていないとなかなかまとまらない国だと思えますが、それがもっと難しくなる。そうするとアメリカは、国としてのまとまりを欠いた状態になる。一方、中国はきわめて効率的に国の力を発揮している。

そういった意味で、力のアンバランスやパワーバランスの変化は間違いなく起きており、この見方はブレマーさんだけでなく、アリソンさんにしても、ほぼ世界の識者の一致しているところかなと思います。

私たちはそこにどう向き合うのか。日米同盟は絶対変わらないけれど、中国というスーパーパワーが明らかに出て上がっている。そこにどうやってマネージメントしていくのか。お隣の付き合いをどううまくやっていくのかはものすごく大事ですね。

“2021年・報道等に見る「青山ゆかりの方」” <中編◆3> 編集;工藤義夫(事務局)

「NHKスペシャル・パンデミック激動の世界」が伝える社会への視座 …前頁〜続 <大越健介キャスターインタビュー>

◆第5回では、国家間対立の視点からコロナウイルスワクチン争奪戦も伝えられます。

◆大越: 難しい問題ですね。ワクチンの争奪戦は実際にもう起こっており、先進国がこぞって、米・欧の開発したワクチンを買ひあさっています。日本もそう。それは国民を守るために当然やることで、まず自国民優先という争奪戦が起きている。独自開発を進めている国もあるけれど、置き去りにされる国は間違いなく出てくるでしょう。そこにどうやって手を差し伸べるかという取材を行っています。一つの理想の姿に近い、その取り組みの例を紹介いたします。

◆主に危機に焦点を当てる番組シリーズとして、内容は暗くなりがちかと思いますが光明を見つけるといふ思いはございますか?

◆大越: 番組の作りとしてどうしても、深刻な事態を直視しなくては行けないので、深刻な事態の連打になるところはあります。見ているものすごくハッピーな気分になる番組ではないけれど、そこは一つの狙いで、そんなに能天気ではられないという現実にはちゃんと伝えるべきだと思っています。ただやっぱり、これまで放送したシリーズ全体がそうですが、大きな衝突に発展せずに、共存・共栄を図ろうよというメッセージは、必ず盛り込んで、深刻な事態も乗り切ることができるんじゃないかという示唆のようなものは入れていると思います。

第二次世界大戦以降、世界的な戦争は起きていないけど、一方では難民が発生したり、テロがあったりという悲劇も重ねられています。その両方をちゃんと見なきゃいけない。今、新型コロナウイルスのパンデミックという悲劇に襲われていますが、そこは実態として見ながら、でもこうした危機を乗り越えてきた歴史もあるよという視座も忘れないというのが番組の基本姿勢です。

◆第4回「問い直されるあなたの仕事」では変わっていく労働社会を取り上げました。常に働き方をアップデートする必要があるという内容に感じられた事を聞かせてください。

◆大越: 今、アップデートと聞いて、いい言葉を使われたなと思います。アップデートするのがだんだんしんどくなってきますよね。我々は世代的に追いついていけない部分があるし、ただで一方で背負うものは相変わらず大きい。その認識をアップデートしていく努力は、これからの会社の中で生きていくためには、どうしてもしなきゃいけない。

仕事を続ける人間なら、新しい時代なんて俺は嫌だということは許されないと。でもちゃんと努力してアップデートしようとしている中高年の人たちは、共感しますし、温かい眼差しを注いでほしいと思います。一方で、すべてのことをDXではできない。DXは我々にとって必修科目であるけれど、それが全てではない。どういう形であれ、私たちはみんな一人ひとりが、社会にとって、自分にとってエッセンシャルな存在でありたくて仕事をしています。必修科目はあるが、絶対ではないという立ち位置で、DXを活用したいです。

◆大越キャスターはずっと報道やスポーツ番組に携わられてきました。そのお仕事が続けられてきた中で心にあることお聞かせいただけますか。

◆大越: 政治が一番長いのですが、いろんなジャンル、分野を取材してきて思うのは、自分は今の登山道を行っているのかということです。目指すのは、結構壮大なことを言う、次の世代に少しでも良い社会を残していきたいということですね。

山が一つあって、その頂きを目指そうとなると、登山道はいろいろとあり、いろんな道から登ることができます。社会が成長し、より良い社会、より豊かな社会、より公平な社会、そういう理想像を目指す上では、スポーツもその要素だし、政治はもちろん、経済活動も、文化活動も、いろんな社会福祉もそうです。より良いところを目指そうとする志を持って、いろんな道からたどることができると思うんです。そのために自分が今歩んでいる道は、スポーツ、報道だったり、「NHKスペシャル」のシリーズを作ったりすることですが、目指すところは一緒。少しでも恥ずかしくない社会を後世に、自分の子どもや孫に残したいという、その思いで臨んでいます。

◆今述べられたことを考えはじめたのはおいくつくらいのことですか?

◆大越: 50歳くらいからですかね。そろそろ自分もそんなに一線でバリバリ働くことができない年齢と思うと、高度経済成長の良い時代に育ってきた自分だけが勝ち逃げしてはだめだなと。焦りに似た気持ちがあります。糸口だけでも残して去りたい。

◆若者への期待感も大きいのでしょうか?

◆大越: 最近の若い人たちはすごいと思いますよ。むしろ私の世代の能天気さがもってあっているのにと思ったり、みんなかつちりしているし、ひたむき。ひたむき過ぎるところを気の毒に思うくらいですが、そういう社会にしてしまったのは自分たちのせいだという思いもあり、複雑です。だから、若者が少しでもホッとできる社会を作るためのインフラ作りに役立てたらと思っています。

◆最後に、今後予定するテーマについて教えてください。

◆三村: コロナ感染拡大の第3波がきてさまざまな自治体長の方が難しい舵取りの判断を迫られています。そうした地方と国の役割分担を第3波を記録しながら何がベストなのかを考えていきたいです。2月放送予定は、音楽と芸術とスポーツが不要不急の中に入れられ、存在意義さえも問われるような感じがすると思いますが、そうしたものがパンデミックの状況において、もっと掘り下げると私たちにとって、何なのかということをおぼろげに考える視点を取材しています。

そういうラインアップを予定していますが、パンデミックに影響を受けていないジャンルはなく、ディレクターの関心もいろんなところに向いていますので、月1回くらいのペースで落とし込んでいきたいと思っています。

★トピックス★ 南場智子 DeNA会長が“経団連副会長”に内定 <2021. 3. 8 報道>



経団連初の女性副会長となる。経団連は産業界、企業の競争力強化には、人材の多様性が重要であるとアピールしており、今回の人事で、経団連の女性活用の取り組み姿勢を明確にする。アイデアや発信力には感銘しているとのこと。【青山89期】

★NHK記者でTVに出ています★ “成澤良”〜都庁担当 <2020年の夏〜>



コロナ報道では 小池知事の会見取材で活躍中 <青山105期>

「あっち側の人」だって同じ人間 森達也さんの思考回路

2021年1月6日 朝日新聞 ◆森達也; 映画監督 / (青山・83期) ◆



「ああ、あっち側の人ね」。相手の立場や主張に距離を感じたとき、そんな言葉が浮かびがちです。でもそのとき「こっち側」とはどんな場所なのでしょう? あっち側と名指された人たちと多く向き合ってきた映画監督・作家の森達也さんが語ります。

誰かが誰かを「あっち側の人」とみなす。その例として僕が思い出すことの一つは、2001年に起きた9・11同時多発テロ事件です。

あのとき、航空機を乗っ取って米国の巨大ビルに自爆攻撃したのは狂信的なイスラム過激派の男たちでした。突撃の直前「神は偉大なり」と叫んだに違いない——聞いたわけでもないのに、多くの人がそんなイメージを共有しました。「無差別殺人者を正義と信じる残虐で冷酷な男たち」とのイメージです。

でも、彼らは最期に「お母さん」と叫んだ可能性もある。僕はそう想像しました。人ってそういう存在でもある、と思うのです。

あっち側呼ばわりされる代表例は、反社会的存在だとみなされた人でしょう。

なぜあっち側の人たちばかりに関心を持つのかと、よく尋ねられます。地下鉄サリン事件で知られるオウム真理教の信者や、ゴーストライター疑惑で避難された佐村河内守さん、相模原障害者施設殺傷事件を起こした植村聖さん……。拘留所で面会した死刑囚も計8人います。

彼らと向き合っ受けた共通点ですか? 僕らと同じ人間だ、です。悲しければ泣くし、うれしければ笑う。もちろん、少し気が短いか想像力が弱いなどの個人差はあります。でも、「モンスターに会った」という印象を持ったことはありません。

オウム真理教の施設に入り込み、信者の日常を見つめて抱いたのは、純粋で善良な男女だという印象でした。ただ、そうした人々の集団が残酷な事件を起こしたのも確かです。そこにあるギャップは何なのか。考えるべき課題はそれだと僕は感じました。「凶悪なヤツだから凶悪な事件を起こす」のではなく、純粋で善良な人間がそのまま残酷な行為をしちゃうのだと考えると、人間を理解できません。

誰かをあっち側と呼ぶとき、人は自分をこっち側、つまり多数派の位置に置きます。自分はあっち側とは違うと信じている。でもその境界は、とてもあいまいです。自分もあっち側にいたかもしれない、視点を変えれば、こちらはあっち側なんです。

コロナ禍の「自粛警察」も、「きちんと我慢する私」と「我慢しない誰か」を峻別する発想が入り込んでいないか、気になっています。

人間は集団を作らずには生きていけない存在だし、集団と集団の間に分離が生じてしまうこと自体は避けられない。ただ、ある集団を敵視すれば対立は深刻化します。誰かをモンスター視しないこと。あっち側の人たちも同じ人間であるとみなす回路を、閉じてしまわないことです。



年会費納入者一覧 ; R2.4.1 ~ R3.3.31 (敬称略)

- 51回(1名) 藤澤靖郎 星 満 真壁日史郎 柘瀨晴夫 廣川 勲
- 52回(1名) 廣川 勲
- 53回(1名) 中島常雄
- 56回(4名) 赤坂長弥 網干道雄 井上菊雄 加藤勝則
- 58回(1名) 片桐欣哉
- 59回(7名) 梅沢貞雄 岡田 久 笠井 駿 小村幸久 茂角喜彦 長橋敏雄 納谷喜郎
- 60回(9名) 笠原 功 金山常吉 小林吾郎 杉野剛博 高城英雄 中田 亨 長谷川秀三 早川貞夫 丸山敏視
- 61回(15名) 安宅久憲 安藤友憲 伊藤英子 草間光俊 熊谷隆幸 小林孝司 小林元雄 佐藤敏夫 杉山由人 田中 宣 徳田晋也 長沼雄峰 中村正春 村岡公夫 村山 健
- 62回(8名) 石黒 恒 内山隆之 近藤哲朗 鈴木 勉 曾我 健 手操 聰 渡辺真英 渡辺千里
- 63回(2+1名) 浅野康一\*2回 市川瑞夫
- 64回(19+1名) 青野 啓 植村頼音 遠藤治一 大倉孝男 太田健治 風間治雄 川井文夫\*2回 木山 清 坂井俊一 佐藤 章 佐藤茂司 須田嶺治 高橋正幸 田村康一
- 65回(7名) 安藤宜清 五十嵐 徹 川合英次 濱田庄市 村木利夫 山本和親 横山修二
- 66回(4名) 石山芳春 稲月喜一 高橋守 二宮靖彦
- 67回(12名) 石井幹男 岡崎 功 小野勝義 片山忠一 北村紘一 佐々木邦夫 清水雄伍 鶴賀政行 寺井 宏 前田康久 三堀 浩
- 68回(9名) 上村嶺子 小日向信光 草野 佐 重野康人 竹石 肇 長沼誠二 渡邊公夫 渡邊千艦 渡邊泰彦
- 69回(5+1名) 青木利祐\*2回 小黒朋弘 佐藤孝靖 高木敏之 矢川一義
- 70回(5名) 池田好正 猪口 孝 菅原一雄 渡辺允雄 渡部美那実
- 71回(7名) 柄沢 卓 内山博勝 太田 裕 高橋 稔 西尾レイン 堀 清忠 松田裕子
- 72回(17名) 宇田川由美 小川省三 金巻裕史 神林賢治 黒木トシ子 小嶋修一 小林正昭 近藤 正 齋藤俊正 篠原一博 阿部緑生 天野直二 坂羽 健 岩橋俊朗
- 73回(4名) 飯村修 山田美成 岡川弘道
- 74回(38+1名) 藍沢幹人 青海 潔 味方 冽 池 一 池田正行 池田 裕 石川克彦 和泉 潤 伊藤 宏 岩城修平 大石憲一 大滝 均 ◆岡村康生◆ (5年分~2022) 加藤 博 ◆川田澄子◆ (5年分~2022) 菊池 隆 工藤義夫 解良和郎 小林淳子 齋藤一幸 坂井 靖 坂爪久男 佐藤俊栄 佐藤信秋 佐藤正也 関川修一 高橋 保 高橋信郎 田村栄作 土屋彰義 堤 葵 西田百合子 西脇雄一 沼田 清 橋本昭一郎 原 信一 萬歳美美子 横川三男 若林源基 渡部終五\*2回
- 75回(15名) 有園順子 大塚恵子 五十嵐 正 笠井 忠 木戸 守 小泉慈行 白鳥十三 鈴木正夫 高木久夫 橋爪博美 服部 昭 馬場俊博 萬歳信行 藤井建一 藤縄利勝
- 76回(38+2名) 青山耕一\*2回 明村澄雄 浅妻 厚 阿部令一 阿部緑生 天野直二 坂羽 健 岩橋俊朗
- 77回(5+1名) 片山等 北村一雄 佐藤 茂 時岡高志\*2回 長谷川実
- 78回(12+1名) 石丸隆夫\*2回 太田秀樹 齋藤庫之丞 志藤洋子 篠田敏朗 須田幸子 高井博英 滝沢道夫 肥田博子 松田元男 村田光男 吉澤哲彦
- 79回(10+1名) 伊藤 毅 内山 修 小田章治 河 正子 川上康夫\*2回 小池康義 鳥羽正尚 富山浩司 林 綾子 丸山直昌
- 80回(6名) 青木隆次 大霧博之 小林亮介 清水洋一 竹本泰子 長 正子
- 81回(5名) 荒川 洋 越野昌芳 成海孝二 山田 徹 鵜淵 博
- 82回(6+1名) 小亦 斉 日下部朋子 → \*2回 齋藤 滋
- 83回(8名) 浅間芳朗 遠藤光郎 木下康司 佐野栄二 高山佳郎 豊田 清 野呂咲人 山口虎彦
- 84回(7名) 赤塚徳子 朝倉仁樹 飯塚雅士 田中昌夫 野口俊介 塙 昌樹 星野郁夫
- 85回(9名) 浅田浩義 荒井裕子 今井豊重 奥村 基 塩田拓哉 田中 清 田村 誠 森 大輔 渡辺友紀子
- 86回(3名) 齋藤 健 宮腰重三郎 吉井正行
- 87回(3名) 清水忠明 南 正人 渡辺政城
- 88回(2名) 今井信一郎 櫛谷洋史
- 89回(6+1名) 岩野尚子 小山信也 広川 孝 山崎松吾 山田敏昭\*2回 渡邊克彦
- 90回(11名) 雨夜喜美子 歌代真人 勝山達志 木村和久 小林 到 小林美奈子 齋藤 彰 齋藤結花 坪井俊樹 中村 泰 樋口正史 森 豊 渡辺修也
- 91回(2名) 長田 充 真保恵美子
- 92回(2名) 白坂和久 前田光俊
- 93回(2+1名) 近 貴志\*2回 佐藤賢一
- 94回(0名)
- 95回(2名) 橋田篤英 山崎健太郎
- 96回(1+1名) 浜田恒平\*2回
- 97回(0名)
- 98回(0名)
- 99回(2名) 君和田 俊裕 町田清彰
- 100回(1名) 吉原貴之
- 101回(4名) 浅香美貴 小田和哉 折笠智則 片桐朋美
- 102回(1名) 尾口優子
- 103回(1名) 鷲尾英一郎
- 104回(0名)
- 105回(1名) 成澤 良
- 106回(0名)
- 107回(0名)
- 108回(1名) 近藤雄介
- 109回(0名)
- 110回(2名) 石崎 徹 酒井優理子
- 111回(0名)
- 112回(0名)
- 113回(0名)
- 114回(0名)
- 115回(1名) 本井典子
- 116回(0名)
- 117回(2名) 榎本飛鳥 水間有紀
- 118回(1名) 会田俊貴
- 119回(1名) 塙 孝哉
- 120回(0名)
- 121回(1名) 柄澤秀親
- 122回(0名)
- 123回(2名) 小出拓郎 野口実里
- 124回(1名) 寺井 悠
- 125回(0名)
- 126回(1名) 長浜朱音
- 127回(1名) 渡辺真子
- 128回(0名)

本会は、皆様の年会費で運営しております。ぜひ、納付のご支援ご協力をお願いします。

<R2年度納付分>  
延べ計;370名  
<2回納付者も算入>  
(2020.4.1~2021.3.31)  
総額;829千円

<その他;上記外>  
◆複数年分納付者◆  
~左表に記載済~

目標  
450名

当同窓会は皆様の「年会費」によって運営されています。年会費納付のご協力をどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

2020年度決算 および 2021年度予算 (R3年4月1日~R4年3月31日)

摘要		2020年度 決算 (R2.4.1~ R3.3.31)	2021年度 予算 (R3.4.1~ R4.3.31)	備考 (令和元年度分)
期首現預金残高		1,824,668	1,620,648	
収入	年会費	829,000	800,000	目標:400人 (総会兼新人歓迎会) コロナ補未定
	総会費	0	0	
入	本部補助	0	0	
	雑収入計	0	0	
	受取利息	20	20	
	合計	829,020	800,020	
支出	総会費用	0	0	(総会兼新人歓迎会) コロナ補未定
	第5回ますらお会補助	0	0	
	会報通信費	953,738	900,000	2回分:郵送数減。 印刷等:外注一内製
	事務局費	740	740	人件費
	ホームページ (サーバー費用)	14,172	7,086	今年度分(R3年) サーバーレンタル料等
出	会議費	1,600	1,600	会議1回
	手数料	62,790	62,790	
	雑費	0	0	
	合計	1,033,040	972,216	
期末現預金残高		1,620,648	1,448,452	

注1) 新・会計年度期間:2021年度(R3.4.1~R4.3.31の1年間)

■ 会員ご計報 ■ (敬称略)

R2.4~R3.3月までに事務局にお知らせいただいた方々です。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

卒回	氏名	逝去日
50	上村 光司	2019(R1).12.17
52	小嶋 嘉彦	2019(R1). 9. 5
56	近藤 源也	2020(R2). 12. 16
59	高山 昇二郎	2020(R2). 4. 23
60	本間 不二彦	2020(R2). 10.
61	浅見 昭夫	2020(R2). 5.
61	河井 良三	2020(R2). 4.
61	竹尾 昇	2019(R1).10.
61	大橋 恒夫	2020(R2). 1. 7
62	藤原 肇子	2020(R2). 8. 26
68	寺尾 正大	2021(R3). 1. 24
74	佐藤 浩	2020(R2). 2. 7
76	古川 恒一	2020(R2). 5. 13
76	丸山 俊夫	2020(R2). 1. 31
77	石川 彰	2020(R2). 5. 26

寺尾 正大さん 逝去 (青山68回卒)

2021年1月24日 歿 (78歳)  
◆警視庁「ミスター1課長」...元捜査1課長等  
◆「ロス疑惑」、「地下鉄サリン」等難事件指揮。オウム真理教団の逮捕・起訴にも尽力。  
≪ 講演:「犯罪捜査と我が友」2002.6 東京青山新人歓迎会。ロス疑惑捜査の裏話も披露 ≫



“2021年・報道等に見る「青山ゆかりの方」” <後編◆連載1> 編集:工藤義夫(事務局)

竹本 恵 (たけもと めぐみ)

◆シングルママ幼児2人連れ  
スペインMBA生活24時◆

6時半起きで22時前にバタンキュー、  
刺激的な出会いと学びに満ちた日々

2019.06.11 日経DOORS

\*\*\*\*\*

新潟高校には3年から編入。  
青山107回卒、東大野球部。  
東京六大学野球に投手で  
出場。教育学部を卒業後、  
3年間、二輪で世界旅。  
東大公共政策大学院。

日経記者。結婚、出産(2子)  
離婚後、子連れでスペイン  
バルセロナにてMBA留学中。



元新聞記者で、現在スペイン・バルセロナに  
MBA留学中の竹本恵さん。これまでESADEに留  
学した理由や、授業の内容を聞いてきましたが、  
今回はシングルで2歳と5歳の子どもを抱えた海外  
MBA生活を詳しく教えてもらいます。あとがきでは、  
ESADEで活躍している台湾人留学生・エミリー  
を紹介します。竹本さんは、「子どもを産んでから  
仕事を辞めて海外に留学し、起業を目指す」とい  
う新しい選択肢を具体的に提示してくれている希  
少な新型ロールモデル。ぜひご参考に!

♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪

<子どもはキックボード、  
自分はベビーカーを押して通学>

こんにちは、竹本恵です。前回は主に入学後の  
生活についてお話ししました。今回は私の日々の  
生活などについてお話ししたいと思います。

私の一日はまず、午前6時半に起きることから始  
まります。これは日本と同じですが、明るさが違  
います。例えば4月はまだ暗く、6月は日の出後です。  
そして最も長い6月の日没はなんと午後9時。  
スペインが、特に夏の時期に日が長いのは事実  
なのですが、あと1時間、時刻設定を早めてくれれば、  
そこまで違和感なく過ごせるのといつも思  
います。

さて、朝の話に戻りますが、起きたら自分と子  
どもの支度を済ませ、8時半前くらいに家を出て子  
どもを学校に送りに行きます。私一人だと所要時間  
は徒歩7分。5歳の息子と2歳の娘の二人を連れる  
と、10分から30分以上までと状況によってかかる  
時間はさまざまです。

今は子ども二人がキックボードで、私は荷物を  
載せたベビーカーを押すか、子どもと一緒に大人  
用のキックボードで出かけます。バルセロナでは  
キックボードに乗っている人が非常に多く、例えば  
大人用の電動キックボードに子どもと二人乗りと  
いう人もよく見かけます。日本で一般的な子ども  
乗せ自転車を利用している人はあまり見かけませ  
ん。



<連載>  
第4回  
/ 全6回

元記者 竹本恵の



我が家の目の前の道路を通過して通学中です。  
雨が降るといつにも増して不都合が多くなります。  
道路の真ん中に広い歩道があり、その奥の芝生  
の先は自転車道、さらに芝生があって車道、その  
隣が路上駐車スペース、さらにその奥の一番端  
がまた歩道になっています。

通学路は、歩いているとあまり意識しないくらい  
の緩い坂道です。歩道がとても広く交通量も少な  
いので、子どもがキックボードを多少好きに乗り  
回しても安全です。

ただ、私自身もキックボードで出かけた場合に  
問題が起こることがあります。行きは上り坂なた  
め、娘に急に「抱っこ」と言われると、荷物とキ  
ックボード2台と娘を前に途方に暮れることにな  
ります。一方、ベビーカーで出かけた場合、行き  
はいいのですが、下り坂になる帰り道に、子ども  
たちを追いつくのに必死で走る羽目になります。  
日々のことなので私にとっては大問題なのですが、  
まだ画期的な解決策は見いだせていません。

<授業後は子どものお迎え、  
シッターの出番も>

子どもを送って大学に着くのがだいたい9時  
すぎ。そこから10時の授業開始まではおおむね、  
予習やメールチェックの時間に充てています。  
ESADE(エサーデ:ESADE Business School)は  
出席の管理がとても厳しく、授業開始後2分以  
内までに教室前の指紋認証機でピッとやらなけ  
ればいけないので、学生は少し早めに来ている  
ことが多いです。と言っても間際に慌てて走って  
やってくる学生の姿もいつもの日常の一風景で  
す。また、学内にジムが併設されているので、  
授業前にひと汗流してからやってくる学生も多  
いです。



教室前の指紋認証機です。ハイテクだと思  
う方もいると思いますが、そこはスペインです。  
私の指紋はなぜか認証してくれず登録がで  
きなかったため、私は毎日、学生証をピ  
ッとかがざすことになっています。同  
様の人がほかにも何人かいます。

昼食は学内のカフェテリアで、1つ250円前後  
のサンドイッチを買って次の授業の資料に目を通  
しながら食べるのが多いです。バゲットに生ハ  
ムやサラミ、ハム、チーズなどを挟んだ「ボ  
カディーヨ」というサンドイッチで、こ  
ちらの軽食としてはとても一般的な食  
べ物だと思います。値段は中の具によ  
って異なります。また、時間と心に余  
裕があるときは学内に2つあるレスト  
ランのどちらかで

定食を食べます。パスタやスープ、肉、魚料理など  
から2皿を選び、飲み物とデザート、パン、食後の  
コーヒーが付いて約1000円です。ちなみに飲み物  
はソフトドリンクのほか、ビールやワインも選べ  
ます。さすがスペインです。ただ、値段と質を考  
えると、少し高いかなと思います。私のス  
ペイン語クラスの先生のフランチェスコは、  
以前の業者はおいしかったが今の業者  
に代わってからはまいちだとこぼして  
いました。

午後に授業が入っている日は午後6時に  
授業が終わってすぐ、子どもを迎えに行  
きます。午後の授業がない時は予習  
をしたり、チームでミーティングを  
したり、もしくは友達とのんびりお  
しゃべりしてまったり過ごしたり  
してから学校を出ます。子ども  
の学校は基本的に午前9時から  
午後5時までで、いわゆる預  
かり保育のようなものが、朝  
は7時半から、夜は7時  
まであります。

火曜と木曜は午後の授業の後にス  
ペイン語の授業が8時半まで入  
っているの、さすがに自分一人  
では対応できません。ベビー  
シッターのマルタに、子ども  
を迎えに行き、用意しておいた  
ごはんを食べさせ、お風呂に  
入れるところまでの面倒を見  
てもらっています。彼女は20歳  
そこそこですが、子どもの扱  
いがとても上手。子どもがス  
ペイン語での意思疎通が全  
くできないときから、よくな  
つてくれました。いつも本  
当に大助かりです。

ちなみにマルタとの出会いはベ  
ビーシッターのマッチングサ  
イト。時給8ユーロでお願い  
しています。MBAの2年目は  
夜の時間帯までかかる授業  
がなくなるのですが、引き  
続きお願いしたいと考えてい  
ます。

<夜は子どもと一緒に寝落ちしちゃう!>

さて、午後8時半から9時過ぎ  
くらいに子どもを寝かせた後  
は、また授業の予習などを始  
めます。と、言いたいところ  
ですが、疲れて子どもと一緒  
に寝てしまうことのほうが  
圧倒的に多いです。もし余  
裕があれば、翌日のごはん  
の支度や洗濯なども済ませ  
てしまいたいところですが、  
理想と現実とはなかなか  
近づいてはくれません。こ  
んな感じで私の一日が  
終わります。

目が回るほどの忙しさ、とい  
うものではなくありません。  
ただ、常に課題の締め切り  
などがあるので「今週さえ  
終われば、来週にはもう少し  
楽になると思いながら、や  
ることはいつも山積したま  
まで。当たり前ですが時間  
は限られており、私は家族  
を優先すると決めている分、  
とても残念ですが他の学  
生と交流する時間を犠牲に  
していると思っています。

例えば、夜のイベントには  
なかなか参加できません。  
子ども連れを歓迎してく  
れる夕食会だとしても、こ  
ちらの夕食は午後8時や9  
時の開始なので、子ども  
のことを考えるとおいそれ  
とは連れていけません。ま  
た、ESADEには学生が主  
体的に運営するクラブが  
十数個あり、私もそのうち  
のいくつかに在籍してい  
ますが、クラブのイベント  
は夜開かれることが多い  
ので、ほぼ幽霊部員の状  
態です。

“2021年・報道等に見る「青山ゆかりの方」” <後編◆連載1> 編集:工藤義夫(事務局)

<住まいは3LDK+バスルーム2つ、100平米で月約20万円>

ところで、ESADEがあり、私が住んでいるサンクガットという町は高級住宅地。先日、スペインの方と結婚されている日本人の女性から聞いたところによると、平均世帯収入がスペインで2番目の地域なのだそう。1番は首都のマドリードの郊外にある町とのことでした。その女性はサグラダ・ファミリアの近くに住んでいるのですが、家を購入するときにサンクガットにも引かれて見に来たそうです。家賃はバルセロナと同程度で、私が住んでいる、いわゆる3LDKでバスルームが2つ付いている100平方メートルほどの部屋が月約20万円です。こちらに引っ越してきたときは本当に選択肢がなくてやむを得なかったのですが、1年たつのを機に、できるだけ安い物件に引っ越したいと考えています。

サンクガットのいいところは、治安が良く、人が親切で、子どもが多いところです。子どもの好奇心をそそるさまざまな遊具がある公園が、徒歩圏内にたくさんあるところも、とても気に入っています。また、とにかく歩道が広く、中心部はいわゆる歩行者天国で車が入ってこないで、安心して子どもと歩けます。町の恐らくシンボルであろう修道院の前は大きな広場になっていて、そこを取り囲むレストランやバルのテラス席で大人がコーヒーやビールを飲み、子どもは広場で走り回る、というのが日常の風景です。修道院の前に限らず、テラス席の前に公園があるお店がいくつもあるので、子ども連れには恐ろしく優しい環境といえます。

サンクガットは良くも悪くも、国際的な観光都市バルセロナの雰囲気は感じられません。そして、独身の学生には刺激的な町ともいえません。ESADEの学生のほとんどはバルセロナ中心部に住み、片道約30分、電車に乗ってサンクガットまで通っています。「ESADEがバルセロナの中心部にあったらよかったのに」という学生の声も多く聞きます。

逆にサンクガット在住では、バルセロナ市内に数えきれないほどある観光名所をなかなか見て回ることができません。私は「その気になればいつでも行ける」という感じでこのまま、サグラダ・ファミリアにすら行かずに1年を過ごしてしまっています。

サンクガットのシンボル、修道院です。市のホームページによると9世紀に建てられた歴史のある建物です。建物の正面の入り口前には大きな広場があり、この場所は正面向かって右の側面から修道院を見た写真になります。

ところで、日本のゴールデンウィークの少し前に、スペインでは約10日のイースターの休暇があります。冬休みにバレンシアに行った以外はバルセロナから出ていなかったのでも「どこかに行こう、どこかに行こう」と思いつつ、間際まで日程を確定できませんでしたが、さらに休暇期間の飛行機代の高さも相まって、結局、バルセロナから電車で1時間ほどのタラゴナという町に2泊することで落ち着きました。我が家からだと歩きや乗り換えを含め2時間ほどです。

タラゴナはローマ時代の遺跡が豊富で、世界遺産に指定されています。中でもアーチがきれいに残る水道橋は2世紀頃に作られたもので、ローマ時代に作られた水道橋としてはセゴビアに次ぐ規模です。現存するのは全長217メートルですが、当時は35キロメートルもあったそうです。高さ27メートルのその水道橋の一番上の部分は幅1メートル

もないくらいの水路になっていて、今はそこを歩いて渡ることができます。下を見ると結構怖いです。

今回は近場で終わりましたが、次回はぜひ、チュニジア辺りになんとか行けたらいいなと思っています。バイクで旅行中、行きたかったのに行けなかった場所の一つです。バルセロナからだと、直行便でたったの1時間半強の旅です。

<あとがき>

今回は、ESADEのクラブの一つ「Women in Business Club」の代表として活躍している台湾人留学生、エミリーを紹介したいと思います。彼女は私とクラスが違うこともあり、頻りに会うというわけではなく、また、これまで一緒に課題などに取り組んだこともありませんでした。が、なんというか、彼女には美しさと力強さを併せ持ったオーラがあって、会うたびにいつも「私ももうちょっと頑張ろうかな」という気にさせてくれる、とても格好いい女性です。ちなみに台湾からの留学生は同学年で、エミリー一人です。

エミリーは台湾の電子機器メーカーで法人営業を約7年経験した後に、ESADEにやってきました。パソコンやパソコンの部品を作っている会社です。エストニアやデンマーク、ハンガリーなどヨーロッパを中心とした地域での勤務経験が豊富で、現地での販売網の構築やマーケティングなどの業務を担当してきました。仕事でよい成果を上げることができていた一方「もっと、世界を良い方向に変えるようなインパクトがある仕事がない」という強い思いを抱えていたそうです。そして「そのためにはMBAの学位やビジネスマネジメントの知識が必須だ」と考え、彼女はキャリアを中断する決意をしました。

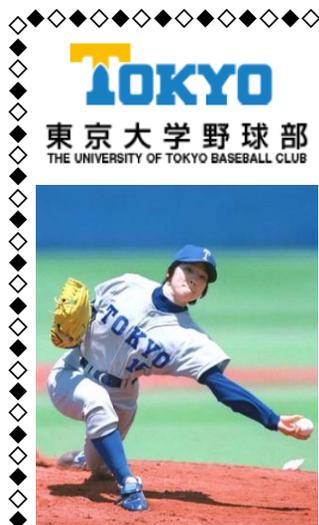
当初は卒業後の進路で具体的なことは考えていなかったようですが、「やはりテクノロジーには世界を変える力がある」と思いテック系の企業への転職を希望しています。

「例えばGoogleの技術があれば、例えば南米ペリビアの小さな町にいても情報にアクセスができ、かつ世界中の人がその町について知ることができ、例えばその町を宣伝をしたり観光ツアーを作ったりして、町やそこに住む人々の発展の手助けをすることもできるでしょう」。こういったビジネスに彼女はとても興味があるそうです。エミリーにとって仕事は「ギブアンドテイク」。自分の知識や経験を生かして人の役に立ちたいという一方で、仕事を通じて自分自身も成長させたい、という考えが根本にあります。

あつという間に必修期間が終わろうとしているMBAですが、「自分が想像していた以上のものを得られている」とエミリーは感じています。これまでも全く異なる文化圏でさまざまな国籍の人たちと一緒に仕事をしてきた経験から、「国際的な環境」という意味ではさほど期待していなかったそうです。ただ、「背景も考え方も価値観も問題の解決方法も、MBAにきた目的も人生の目的も違うクラスメイトと交流し、彼らを知り彼らから学ぶことがとても刺激になっている」と話してくれました。

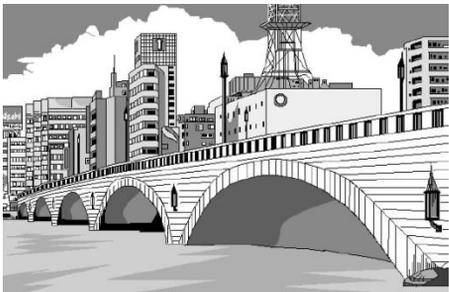
必修期間の最後、6月には「マスタープロジェクト」という2週間にわたる課題があります。クラスは関係なく自主的に4人のチームを作って取り組むのですが、この最後の最後の機会でもエミリーと同じチームで学べることになりました。どんなチームワークを発揮できるか、今からとても楽しみです。

文・写真/竹本恵



◆かつて神宮◆  
2001年東京六大学春季リーグ戦、対慶大1回戦初登板(日本女性初)、次いで対明大2回戦で小林千紘との女性同士の先発が実現。リーグ戦の通算成績は4試合登板、0勝1敗、防御率9.00。

「報道人として生きて」5回連載<第2回> ~ 元時事通信社記者・高橋 守(66期) ~ “私家版・私の履歴書”より



新潟市の象徴・信濃川の「萬代橋」

第2章 文部省詰めめの記者に転じて (第2章の 会報前67号続きから)

・教育関係の出版社から多くの原稿依頼

NHKのラジオ番組への出演ということが2回あった。いずれも教師向けの番組であり、1回目は確か教育課程改定の話、2回目は学校週5日制のことなどを話した。注目されていた学校週5日制の実施時期について、私は92年度からの実施を明言。92年9月から実施され、それが的中するかたじけなかった。

パネル討議にも、何回か出させてもらった。日本教材学会では、教材としての新聞の有用性について、全国公立学校教頭会の長崎大会では、文部省の担当官と生涯学習について論じた。後者は、聞いてくれる先生たちが何と3200余りも。ここでは、江戸時代の儒学者、昌平坂学問所塾長、佐藤一斎の言葉、「少にして学べば、則ち壮にして為すことあり。壮にして学べば、則ち老いて衰えず。老いて学べば、則ち死して朽ちず」を、生涯学習の神髄だと話した。

さまざまな出版社から、原稿依頼が舞い込む。小学館、旺文社、ぎょうせい、第一法規、リクルート社、学習研究社などなど。毎月20日過ぎが月刊誌の締め切りになっていて、そのあたりの週末は決まって原稿書きに追われている。子供たちは、机に向かう父親の後ろ姿しか見たことがない、というありさまだった。時間が足らなくなると、アタッシュケースを机代わりに、通勤時も書きまくった。もちろん、本業の原稿でもある。幸い、原則10時出勤だったから、混雑しておらず、それほど抵抗感はなかった。帰宅時の原稿書きは、睡眠時間確保のためでもあった。それによって得られる稿料は、交際費に。暑気払いや忘年会には、校閲を担当してくれている人たちを招いて、労をねぎらうなどした。

リクルート社が、『カレッジマネジメント』という月刊誌を創刊した時のこと。編集長からの依頼で、創刊号に私学助成について長文の論考を書かせてもらったのが懐かしい。同社には進路担当教員向けの『キャリアガイダンス』という月刊誌があり、これにもよく寄稿した。

<目次>

第1章 グラフ誌の記者として始動

◆第2章 文部省詰めめの記者に転じて (第2章の 会報前67号続きから) (今号は、第3章までを転載します)

第3章 新聞協会でNIE運動旗振り役

第4章 家族と40数か国60数回もの旅

第5章 新国オープンでオペラの楽しみ

第6章 多くの健康問題抱え度重なる入院

第7章 128円48銭で無事誕生

第8章 師範の附属国民学校に入学

第9章 附属小・中学校時代の友人たち

あとがき

2017年6月 日本プレスセンター「アラスカ」にて



旺文社では『蛭雪時代』、小学館では看板教育誌『総合教育技術』に20年以上にわたり執筆した。小学館には、教育課程改定の解説記事を書くため、日曜に横浜駅近くのホテルに缶詰めされたこともあった。

そうした流れのなかで、入試改革について、旺文社の社員研修、名古屋・河合塾の職員研修で話をした。旺文社にはほかに、高松、広島、福岡、千葉などでの講演を頼まれた。福岡での私の出演は午後一番。昼休みに、フグを食べに行こうと誘いを受け、有名な店でごちそうになった。ただ、出番を控えていた私だけはアルコールなしであった。

千葉の臨海部のホテルで開かれた講演会では、慶応義塾塾長・石川忠雄の前座だった。日教組の依頼で、高知に出かけた。日教組傘下にも校長会がある。珍しい存在だが、その研修会の講師にということであった。終わった後の宴席、校長会長の隣に座られ、参加者が次々に酒をつぎにやってくる。何しろ酒好きの多い町。こりゃたまらんとおもっていたら、会長がお膳の手前に容器を置き、そこでおちょこを空にするという裏技を教えてくださいました。

兄一夫の新潟第一師範・附属国民学校時代の恩師だった太田英一新津市立小学校長会長から、広域の校長会の研修会に招かれ、文部行政、日教組の裏事情などについて1時間あまりお話ししたことがあった。文教関係で大きな出来事があると、『週刊文春』『週刊新潮』の編集者から取材の電話が入る。締め切りの関係で、決まると土・日の夕食時。せつかつの料理が冷めてしまいうつろいながらたびたびだった。

・付き合った大臣は奥野成亮から33人

日本新聞協会の時期を含め、付き合った文部大臣・文部科学大臣は33人。奥野成亮にはじまり、三原朝雄、永井道雄、海部俊樹、砂田重民、内藤善三郎、谷垣専一、田中龍夫、小川平二、瀬戸山三男、森喜朗、松永光、藤尾正行、塩川正十郎、中島源太郎、西岡武夫、石橋一弥、保利耕輔、井上裕、鳩山邦夫、森山真弓、赤松良子、与謝野馨、島村宣伸、奥田幹生、小杉隆、町村信孝、有馬朗人、中曾根弘文、大島理森、遠山隆一、河村建夫、中山成彬まで。

谷垣は自民党幹事長を務めた禎一の父、小川は宮澤喜一元総理の伯父、保利は元衆院議長・茂の長男、鳩山は日ソ国交回復を実現した一郎・元総理の孫、中曾根は昨年亡くなった康弘・元総理の長男だ。

前出の永井は74年の三木武夫内閣発足に伴い、文部大臣に。教育社会学を専門とし、京都大学教育学部助教授、東京工業大学教授、朝日新聞社論説委員を経ての就任だった。民間人の関係起用は58年、岸内閣で外務大臣に就いた藤山愛一郎以来、17年ぶり。何しろ日教組の教研集会で講師を務めたことがあり、榎枝元文・日教組委員長が歓迎談話を発表するなどしていたから、その振る舞いが注目された。

文相退任後、彼は時折、記者会に顔を出した。入口に最も近くに位置するわが社のボックスに必ず立ち寄り、よもやま話をしていくのだった。ドナルド・キーンは彼の無二の親友であり、彼についての話をよく聞かされた。

永井には、文部記者会との懇談の席で、大正から昭和にかけての政治家、父・永井柳太郎の演説の声色を聞かせてもらったことがある。

声色と言えは海部俊樹。彼は、田中角栄がかつて海部を応援してくれた街頭演説の物まねが十番だった。

・文相経験者から総理になった海部と森

田中龍夫は、27年から29年に首相を務めた田中義一の長男。右からの教科書攻撃真っ盛り時代の時の文相で、国会でどう追及されても「立派な教科書を作ります」と一言で通した。彼からは、

後援会の機関紙に寄稿を頼まれ、1面に大きな記事を書いてあげたことがある。名だたる健啖家で、誘われて韓国料理を食べに行ったことも。クラブの数人が、彼とジビエ料理を食べに行き、腹を壊さなかったのは大臣だけだったという話が河村。80年政界を引退し、あとを河村健夫に譲る。河村には、地盤だけでなく軍資金までつけてやったという。

塩川正十郎は、私のいとこ、長野耕治と慶応の経済学部で同期。耕治はずっと、同期会の幹事を務めていた。塩川は気づいて、「瞬間湯沸かし器」と言われていたが、そうした場面に出くわしたことはなかった。大臣就任の日、現金300万円を総務課長に渡し、「適当に使ってくれ」という。総務課長は塩川が大臣から外れた時、そっくりそのまま返したと聞いた。

鳩山邦夫はいよいよ加減なところがあって、公務があっても日本シリーズを見て遅れてくる。出張先では公務があるといつて早々に、趣味のチョウチョのコレクションを見に行く、といった具合だった。

上記の中に、後に総理になった人が2人いる。福田武夫内閣などで2回文相の職にあった海部俊樹と、第2次中曾根内閣の森喜朗である。森には、党の文教部会長をしたという時、院内でインタビュアーに応じてもらう。その翌日、秘書がオールドパーを届けてきた。まだ若手だった彼が、インタビューしてもらってありがたいと思ったのだろう。細かく気を使う人なのだ。そのまままらしておくわけにもいかないから、デスクと相談し、インタビュー料を支払ったのだった。前述のようにシンポジウムで出会いがあるなど顔見知りだったこともあり、大臣就任の初会見が終わったところで森は、一番後ろにいた私のところに歩み寄り、握手を求めてきた。

西岡武夫は、文教族として名が知られており、文部省詰めになったころ、審議されていた「教員の人材確保に関する法律」以来の仲だった。文相時代には、独自の学制改革案を推進、わが家に電話をしてくるほどだったが、当然のことながらそれが目の目を見ることはなかった。

文部大臣の政務秘書官や護衛官とも仲良くなった。砂田重民文相のときは、菅原通済の子息が政務秘書官をしていた。砂田文相の護衛官とは、新宿のスナックで一杯やったことも。SPは一定の基準があるとかで体格がよく、いざとなれば、弾除けになることも辞さないという覚悟を話していた。

文相、そして衆議議長をやった坂田道太の政務秘書官、渡瀬憲明は、かなりの大物で、議員たちから1目も2目も置かれていた。渡瀬は坂田が引退すると、その後継として代議士となった。

・左右からの批判にさらされた教科書検定

76年に最高裁大法廷で出された旭川学テ事件判決。56年から65年にかけて行われた「全国中学校一斉学力調査」(全国学力テスト)を阻止しようとした教師が公務執行妨害罪などに問われた事件である。国家が教育に介入することは違憲となるかどうか争われ、「国家も必要かつ相当と認められる範囲で、教育内容を決定する権能を有する」としたが、ポイントだった。教科書検定をめぐる争いは、左から、そして右からと厳しい批判にさらされた。

82年、高校歴史教科書の検定で、日本軍の華北への「侵略」が「進出」に書き換えられた、とする報道が一斉になされた。これに中国が大きく反発、国際問題に発展する。社会党の土井たか子は、韓国大使館に駆け込み、同国の対応を促すということをしたようだった。

当時の文部記者会では、手間のかかる検定取材について各社分担でチェック、その共同作業の成果を互いに活用するという慣行が続いていた。

実教出版の「世界史」を担当した日本テレビの記者は「日本軍が華北に『侵略すると…』という記述が、検定で『進出すると…』に変わった」と報告したのだ。確認作業を怠った各社の記者により、それがそのまま報じられてしまう。

「報道人として生きて」5回連載<第2回> ~ 元時事通信社記者・高橋 守(66期) ~ “私家版・私の履歴書”より

実は、同年の検定で、そうした事実はなかったのだ。世紀の集団的大誤報である。

手を焼いた官邸は、8月26日、「日本は過去に於いて韓国・中国を含むアジアの国々に多大な損害を与えた」とする宮澤喜一官房長官談話を発表、文部省は、過去に改善意見をつけた例があったことから反論せず、11月24日、教科用図書検定基準の中に「近隣のアジア諸国との間の近現代の歴史的事象の扱いに国際理解と国際協調の見地から必要な配慮がされていること」という近隣諸国条項を加えて幕となった。

この事件以来、この日本テレビの記者の姿を二度と見ることはなかった。

この「侵略・進出」の教科書大誤報事件。これに、産経新聞の北井良彦は、いち早く1面に「訂正・お詫び」を書いた。彼らしい実に率直・妥当な対応であった。この北井の対応に、「どうやってお茶を濁すか?」と考えていた各社は頭を抱えた。

朝日はというと、誤報を認めつつも、「問題は文部省の検定姿勢」など文部省への責任転嫁論を展開。毎日も「当初は、これほどの問題に発展すると予測できず、若干、資料、調査不足により読者に誤った解釈を与える恐れがある部分もあった」「一部にせよ、誤りをおかしたことについては、読者におわびしなければなりません」としながらも、「この本質は、文部省の検定の姿勢や検定全体の流れにあるのではないだろうか」というありさまだった。

私は社会部の記者ではなかったことから幸い、記者会のこの共同作業に加わっておらず、訂正記事を書かなくてすんだのだった。この時の検定結果の記者レクは午後4時に始まり、短時間の夕食休憩をはさんで、深夜1時半まで続くという、記録的なものとなった。厳しい質問に對峙したのは、課長補佐、佐々木正峰(のちに文化庁長官)ほぼ一人。冷静で優秀な役人だった。

・共通1次の1月実施をいち早くキャッチ

大学入試改革、大学共通第1次学力試験導入は、計画段階から、大きな取材テーマであった。実施時期を巡っては、12月実施案と1月実施案があり、1月実施をいち早くキャッチし、報道することができた。第1回は、79年1月13、14の両日実施された。私たちは、東京・駒場の大学入試センターに終日詰め、取材に当たった。この日はあいにくの雪で、各地でトラブル続出だった。

77年から82年、初代の大学入試センター所長を務めたのが加藤隆奥雄。東北大学長を6年務めた後、このポストに就いた。週末になると仙台の自宅に帰り、月曜に夫人手作りの5日分の総菜を持って東京へ、という5年間だった。記者たちともいい関係を築き、退任時には送別会を開いたほど。お返しに「星砂」についての句を色紙にしたものを頂戴した。

共通第一次試験制度は、89年1月まで11回続いた。その間、後述する臨教審答申に基づき、リフォームの検討が進められる。それによって大学入試センター試験が誕生し、各大学の2次試験改革も進められた。

国立大学協会が入試を所管する第二常置委員会の委員長が、小学校、高校の先輩、猪初男新潟大学長であった。彼からは、大学入試センター試験の導入に伴う第2次試験改革についての情報を得たのだった。

81年4月の人事異動で、新任の中学校課教科調査官・飯利雄一の名が目に入る。高校時代の物理の教師と同じ名前だ。会ってみるとやはり恩師その人。彼は10歳年上だが私が教わった5年後33歳で県教委の指導主任となり、さらに5年後、千葉県の教師に転じて、県教育センターの科学研究部長から文部省入りしたのであった。文部省では、87年に専門職として課長級の視学官に。教育課程改定時には、何かとお世話になった。

日教組の取材では、教育研究全国集会在毎年1、2月に各地で開催され、4日間出張という決まりもがあった。どの分科会も、火の気が乏しい体育

館が会場だ。手がかじかんでメモが取れないほどの寒さの中での長時間の取材だから、防寒具にはいろいろ知恵を絞った。オーバースポーンは暖かい。靴を履いたまま校舎に上げられる大きな靴カバーは、家内が工夫して作ってくれた。そのころ買った白金懐炉は、いまだ健在だ。

74年、山形市で開催された時のこと。到着したばかりの毎日新聞論説委員が、駅頭で転倒して骨折、そのまま東京に舞い戻る。その後、産経新聞の論説委員も同様に。雪国育ちの私には、凍てつく道もさほどのことはなかった。

78年1月26日からは、沖縄で開催され、那覇市に隣接する浦添市の学校で毎日、教育課程分科会の議論を聞いた。29日に閉会后、私的に久米島に出かけた。面白かったのは、同島にある鳥島という集落。鳥島で噴火があった際に、避難してきた人たちが住んでいるのだといい、他の島民との交流がなく、言語もまるで異なるということであった。

・臨教審フリージング会見に100回余り

国会は、衆参両院の文教委員会を中心に取材した。国会に行くときは、記者バッチをつけ、通用門で車の窓から記者記章常用証を見せると簡単に入れてくれる。カバンなどはなるべく持たない方がいい。持ち物検査が厄介なのだ。私は、取材ノート(大学ノート)だけを持っていくことにしていた。

衆院の文教委員会では、共産党の山原健二郎が、時折、私の記事を手に質問。同党の書記局からは「教育課程改定について話を聞かせてくれないか。一席設けるから」との電話で、むろん即座に断ったが、それにして「一席設ける」には驚いた。公明党の某議員からは「私が質問したのに、なぜ関連質問のことだけ書くのか」とイチャモン。ひとえにニュース性がなかったからで、「何をバカなことを」と思いつながらも、相手を傷つけないよう対応したのだった。

ある時、のちに民主党幹部になる石井一の秘書が、文部省の紹介でやってきた。石井が、幼稚園教育について講演をしなければならぬので、レクしてほしいという。記者会見室の片隅で、たつぷり1時間、話をしてやった。

84年3月、私は衆議院の第1委員室にいた。第1委員室は予算委員会など50人規模の委員会を開く部屋。中曽根総理主導で、教育改革に取り組むため、臨時教育審議会設置法が審議されていたのだった。教育基本法に関する質問が投げかけられ、森文部大臣が答弁に窮する場面があった。かなりの難問。初中局長の高石邦男が、「はい、はい」と手を挙げる。彼は、答弁席までの間、どう答えるか考えをまとめ、切り抜けたのだった。

高石は衆院選出馬を目指したが、事務次官を退官した後、リクルート事件で刑事罰を受けることに。2002年、最高裁で懲役2年6月、執行猶予4年、追徴金2270万円が確定。高石の長女の夫は、福田淳一財務省事務次官だ。

高石とはかなり親しくして、事務次官時代には頻りに次官室を訪ねた。彼から「暑氣払いをしよう」と誘われ、朝日の山岸駿介にも声をかけ、3人で新潟料理を楽しんだことがある。むろん割り勘である。刑事訴追された後、風便りで、会わないかとの話が聞こえてきたが、それはできなかった。

第1委員室の記者席は狭い。国会中継をするテレビカメラの真下である。机もベンチも確か3人分ずつ作り付け。ベンチの奥に入るには、通路に近い方に座っている記者に少し前に動いてもらい、ベンチの背もたれに沿って土足で入るしかない。なんとも驚く構造だった。

この臨教審設置法が成立。8月21日、首相官邸のボールルームで第1回総会が開かれ、会長に京都大学長を務めた岡本道雄、副会長に興銀の中山素平、慶応義塾塾長の石川忠雄という布陣が決まった。4つの部会が置かれ、審議がスタート。第一部会が「二十一世紀を展望した教育の在り方」、第二部会が「社会の教育諸機能の活性化」、第三部会

が「初等中等教育の改革」、第四部会が「高等教育の改革」を担当、部会間の意見対立が目立った。部会の会合が終わると、事務局などがある首相官邸前の建物でフリージング。夜9時ごろというのが多かった。合宿集中審議というのがあり、休日にも出かけた。85年から87年にかけて4次にわたる答申が出されたが、そのちょうど折り返し点まで100回余りのフリージング、記者会見に出席した。

中山素平とは、これが縁で付き合いがで、理事長を務めていた新潟県南魚沼市の国際大学を視察したことがある。同大は、学生のほとんどが外国人留学生という大学院大学。経済同友会終身幹事だった中山が中心になり、土光敏夫(経団連第4代会長)、家内の遠縁の永野重雄(日本商工会議所第13代会頭)、水上達三(日本貿易会第3代会長)、佐々木直(日本銀行第22代総裁)など、政財界の有力者が発起人になって82年に開学した。中山が定宿にしていた六日町文化財的な宿、龍言に宿泊し、中山の講義を聞かされたり、龍言の次に理事長を務める牛尾治朗と話をしたりしたのだった。

・平記者から部長級に異例の人事

臨教審の審議が進んでいた86年のこと、その教育情報紙『内外教育』の徳武靖編集長が定年を前にフリーライターに転ずる。後任には、「長崎の鐘」の永井隆博士の長男、永井誠一(4期先輩)あたりかと漠然と考えていた。彼は文部省に経験があったからだが、3月半ば、編集長を通じ、編集局長のところに顔を出すようにとの伝言。一高から東大美学など東大出身者が2代続いたポスト、どういこうかか行ってみると、後任編集長の内示であった。実はそれより何年前か、編集長から、「編集委員(次長級)にはいつでも推薦するから」という誘いがあった。しかし「お願いします」という気はさらさらない。「編集委員は減収委員(平記者より減収になる)ですから」とやんわり断っていたのだ。したがって、平記者からいきなり部長級に異例の人事となった。

編集長1年生は、人手不足もあり、大変な船出であった。臨教審はというと、審議開始以来3年間に、会議668回2086時間、公聴会14回、ヒアリング483人、現地視察34回63か所という記録を残し、87年8月7日に第4次の最終答申を出して使命を終える。

設置期間満了の8月20日、霞が関ビル35階、東海大学のクラブに、委員、政府関係者、取材に携わったわれわれ報道陣などが一堂に会し、お別れ会が開かれた。中曽根康弘総理はさぶご機嫌だった。

記録によると、参加者は、国會議員35人、ヒアリングに協力した教育関係団体38人、各省庁関係者143人、報道関係者60人、委員・専門委員42人、事務局80人、計398人となっている。

翌88年にリクルート事件が明るみに。リクルートの江副浩正社長が、リクルートコスモス社の未公開株を、わいろとして配ったというあの事件である。事務次官OBの諸澤正道・国立科学博物館長はこれを文部省の「省難」と呼んだが、そう呼ぶにふさわしい事件だった。86年から88年にかけて事務次官を務めた高石邦男は、前述のように懲役2年6月、執行猶予4年の刑に。高石事務次官時代に官房長を務めた加戸守行、初中局長だった古村澄一らは、とぼちりを受けて更迭されてしまった。古村は次、加戸はその次の事務次官を約束されていただけに、西岡武夫大臣による大ナタは、驚きをもって迎えられた。

この事件が真つ盛りごろ、朝日の政治部記者、竹内謙(のちに鎌倉市長)から電話があり、

## 「報道人として生きて」5回連載<第2回> ~ 元時事通信社記者・高橋守(66期) ~ “私家版・私の履歴書”より

『アエラ』の記者に裏話を聞かせてやってくれないかという。私は、やってきた女性記者に、話してやるほどのものを持っていなかったのだが、オフレコの条件をつけたうえで、加戸にかかわるある事実を話してやった。ところが、あることか、この記者は、それを記事にしてしまったのだ。これは、記事にしないことを当然の前提に加戸から聞いていたものである。事情を加戸に話すタイミングもなく数か月が過ぎていく。ある晩、古村や加戸と懇談した時のこと。古村が「あれは、高橋さんから出たのだろう」という。いいチャンスとばかりに、事情を説明し、1件着落となった。いくらオフレコの条件付きといえ、こうしたことを口外してはいけないのだ。大きな教訓となった。

### ・局総務として7つのメディアを統括

あれは89年のこと。新企画として、教育に関する時の法律問題を優し解説した連載ものが考えられないかと、親しくしていった菱村幸彦・初中局長に知恵を借りに行く。そこで出てきたのが、「教育法規アラカルト」。毎回1ページを割いて、1つのテーマで易しく、面白く解説する。菱村と、下村哲夫筑波大教授に執筆をお願いし、その後筆者を徐々に広げ、とても好評だった。これは、『教育の眼・法律の眼 話題で読む教育法規』と題する単行本になっている。

高校歴史教科書『新日本史』(三省堂)の執筆者・家永三郎が起こした教科書訴訟は、89年から97年にかけて、決着を見た。三つもあるからややこしいが、つまるどころ、「教科書検定は憲法違反」とする家永側の主張に、最高裁は「一般図書としての発行を何ら妨げるものではなく、発表禁止目的や発表前の審査などの特質がないから、検閲にあたらぬ」とし、検定制度は合憲とした上で、原告の主張の大半を退け、家永側の実質的敗訴が確定した。ただ、検定内容の適否については、一部家永側の主張を認め、国側の裁量権の逸脱があったとしたのだ。民事訴訟の勝ち負けを見ると、民事訴訟法は訴訟費用を「敗訴の当事者の負担とする」としているから、原告・被告の負担割合を見ると分かりやすいというのが「生活の知恵」だった。

94年11月のこと。取締役会の誤った判断で、創刊したばかりの週刊誌をわずかに6号で休刊という、大きな問題が発生する。毎週、編集局会というのがあり、部長たちが局長から、取締役会の決定などについて説明を聞き、やりとりする。事実上の廃刊、取締役は10%~20%の報酬削減、という取締役会の決定に対し、だれも何も発言しないのだ。私は、この程度でお茶を濁すことにどうしても我慢できなかった。私だけが、その程度の責任の取り方ですべてか、と量みかける。気まずい空気が流れる。そんなことがあって9か月後の人事であり、驚いた。

95年8月、編集局総務を兼務することになる。編集局長と各部長・部長級の人たちの間に、局長と局総務があり、守備範囲が広い編集局長の仕事を手担して取り扱う。私には、7つのメディアを統括する仕事に加わった。この人事があった翌年4月のこと。政治部長が官邸から受け取った招待状を届けてくる。橋本龍太郎総理大臣主催の「桜を見る会」。各社の編集局デスククラスに招待があるようであった。家内と二人、新宿御苑のこの集まりに出かけた。入口は正門とは全く別で、千駄ヶ谷駅から近い東側の、いつもは閉じられている大きな門からであった。仕事の関係で昼前は家内を残して帰社するというあわただしさだったが、何はともあれ、「奥さん孝行」ができたのはよかった。

当時の招待者は1万人ほど。親しかったのは、文部事務次官時代、中国との教科書問題で苦労した三角哲生夫妻だけであった。

週1回、編集局長、局長、局総務が話し合う「編集局会」がある。96年の11月。その日は地方に提供する新年原稿の企画が議題であった。

担当部長が、中心企画として挙げたのが、そのころ売れっ子だったヤオハンジャパン会長・和田一夫へのインタビューだった。私は無性に気になった。彼は、ある宗教団体と深いつながりがある。「抹茶臭いから、外した方が無難ではないか」という私に賛同者があり、別の人物に差し替えることに決まった。

それから間もなくのこと、ヤオハンは転換社債大量発行による安易な資金調達を利用した過剰投資で、事実上の倒産に追い込まれた。問題は別のところにあったのだが、結果的にいい判断だったのだ。

### ・奈良文化財研究所、奈良先端大などに視察の旅

大きな発表があると、文部省は、事前に各社の論説委員・解説委員クラスを集めて意見交換をする。通称「論懇」という。小・中・高校の4年先輩である、永井梓読売新聞論説委員も文教担当で、こうした会合にご一緒した。その後、長く、夕刊のコラム「よみうり寸評」を執筆した方である。

論説委員などの集まり、文教科問題懇談会はさまざま活動をする。88年、「なら・シルクロード博覧会」が奈良市で開催された時のこと。この年、私は、NHKの永井多恵子解説委員(のちに副会長)らとともに、懇談会の幹事をしていたのだが、広報担当者からの勧めもあり、視察旅行に出かけたのだ。視察先は、同博のほか、奈良文化財研究所、奈良先端科学技術大学院大学、鳴門教育大学、京都市の公立小学校、桂離宮、修学院離宮、京都御所など。その折も、永井梓読売新聞論説委員と一緒にだった。

視察には、平記者時代、文教科問題懇談会のメンバー時代を通じて、さまざまところへ行った。建設途上の筑波大、三鷹の国立天文台、大パラボラアンテナの電波望遠鏡がある野辺山の国立天文台、南極観測の国立極地研究所、東京商船大・東京水産大(2003年に東京海洋大として統合)、長岡技術科学大、東京農工大、東京芸術大、国立中央青年の家、国立久里浜養護学校(現・筑波大附属久里浜特別支援学校)など数え上げればきりがなし。北海道大の低温科学研究所や国立民族学博物館、高知大などは単独か少数で見せてもらった。

国立民族学博物館は、インカの出土品だったかと思うが、私の目はごくごく小さな「顔」にくぎ付けになる。近くの大阪万博記念公園にある岡本太郎作「太陽の塔」の「顔」の一つとそっくりなのだ。案内してくれたスタッフと、思わず顔を見合わせてしまった。

98年、東京大学総合研究博物館を視察した時だったと記憶する。生命工学の大物教授に話を聞いた。それによると、人間の長命を決める遺伝子をもつばら母親からもたらされるもので、父親に決定権はないというのだ。90年代前半の東京芸大視察では、横山大観、平山郁夫など首席で卒業した人たちの卒業制作を見てもらった。学長との懇談で語っては、美術学部卒業生の就職の困難性について話していたが、今日では音楽学部の方が難しいと聞く。

その10年ほど前の視察は、ちょうど黛敏郎らの呼びかけで奏楽堂の再生・保存が問題になっている時であった。奏楽堂は、東京音楽学校の演奏会場として1890年に建設されたが、見る影なく、荒れ果てていた。

懇談の席で、高名な建築家である美術学部長の清家清に、芸大の建築科と工学部の建築科の差異を聞いたら、いわば芸大は日本橋、工学部はその上を横切る高速道路だと話してくれた。奏楽堂もまた、芸大の建築科が扱うべきものであつたらう。清は、慶応義塾長を長く務めた経済学者、篤の父である。

東京文化財研究所を訪ねたときのこと、付置されていた黒田(清輝)記念館を見てもらった。彼の代表作である「読書」(1891年)、「舞妓」(1893年)、3枚組の裸婦像「智・感・情」(1899年)、「湖畔」(1897年)など代表作がすべて見られる。素晴らしい展示であったことから、後日、附属小・中学校時代の同朋会、日比谷会のメンバーを誘い、学芸員の説明付きで鑑賞してもらった。現在、同館は、東京国立博物館の付属施設になっている。

### ・「必然」だったゆとり路線からの回帰

教育課程の基準、学習指導要領はおおよそ10年に1回改訂される。98年に告示される学習指導要領案について、有馬朗人・中教審会長と、論説委員・解説委員などが懇談。席上、この改訂でまたゆとり路線を継承することに、疑問を持っていった私は、本当にいいのだろうかと有馬会長に投げかける。理科など教科によっては、2回の改訂で指導事項が半分近くに減ってしまうことを危惧したのである。同調する人はなかったが、その次の改訂で、ゆとり路線から回帰することになるのは、必然であった。

こうした会合はたびたび開かれた。記録によると、86年12月9日にホテルオークラで総理府青少年対策本部の論懇が開かれている。86年版青少年白書と、青少年問題審議会意見具申「21世紀に向けての青少年の健全育成の在り方」がテーマで、民放を含む15人が出席している。

87年8月に、国立大学協会の呼びかけで「昭和64年以降の入試に関する懇談会」が開かれている。国立大学の入試は、87年度に受験機会の複数化などを実施、その改善について意見を聴く場であった。文教科問題懇談会から各社論説委員・解説委員など10人、国大協から会長の森垣東大、副会長の田中郁三東工大学長、熊谷信昭大阪大学長、入試担当の丸井文雄愛知教育大学長さらに西島安則京大大学長もという顔ぶれだった。

88年、「教員の資質向上策」として、初任者研修制度の創設などを内容とする関連法改正案が国会に提出された。この時は日教組教育新聞に頼まれ、永井順国・読売新聞論説委員らと座談会に出席、それが同紙に見開き2ページで報じられた。私は、硬直化した日教組に、「柔軟姿勢を期待したい」と話した。

日本の初等中等教育のレベルは高い。それは、先生たちの資質、教育課程の基準に根差しているといっている。米国でこんなニュースがあった。米・レーガン政権による1983年の全米審議会報告書『A Nation at Risk(危機に立つ国家)』は、それまで米国教育界を支配してきた「凡庸主義」を徹底的に批判し、教育における「優秀性」を達成することを国家的使命として宣言する、というのである。そのころ、アメリカの成人のうち約2300万人は、日常の読み、書き、理解のテストで機能的非識字者。現在でも、全米で3000万人(成人の14%)が単純な日常的識字活動ができないというデータがある。こうした状況から、教員養成の改善、教職をもっと報酬の多い、尊敬される職業にすることを提言したのであったが、その後はどうであろうか。当時のデータによると、教員の給与は、郵便配達に従事する人たちと配管工の間くらいで、夏休みに給与は出ない。最近の米国労働省統計局の調査によると、全米の平均年収が568万円、それに対し小・中学校教師の年収は677万円に過ぎない。米国の教師のレベルを上げるのは容易なことではない。

### ・楽しかった岩間英太郎事務次官との懇談

文部省では、特攻の生き残りで、主任制問題を片付けた岩間英太郎事務次官(のちに日本体育大学学長)、課長時代に教科書無償を実現した諸澤正道事務次官(のちに国立科学博物館館長)、担当局長として中国との教科書問題に対処した鈴木勲文化庁長官(のちに国立教育研究所長)、教育助成局長時代に初任者研修を実現させた加戸守行官房長(のちに国立劇場理事長、公立学校共済理事長)、担当局長として学校週5日制を導入した坂元弘直事務次官(のちに国立博物館理事長)、大学では、先に触れた有馬朗人東京大学学長(のちに文部大臣、中教審会長、理化学研究所理事長)のほか、高村象平・元慶応義塾塾長(のちに教育課程審議会会長、中教審会長)らと交流できたのは幸せだった。

「報道人として生きて」5回連載<第2回> ~ 元時事通信社記者・高橋 守(66期) ~ “私家版・私の履歴書”より

鈴木勲は温厚な人柄で、仕事ぶりは手堅く、就いたポストに必ず「名…」がつくといわれた。坂元弘直はというと、目から鼻に抜けるような人物で、判断力、決断力に優れていた。

文部省の3階に、大居室や事務次官室、記者会がある。岩間は、夕方になると手洗いのついでに記者会に顔を出し、飲みに来ないかと誘う。「岩間パー」と名がつくほどに、記者たちはよく、夜の次官室を訪ねた。岩間は、焼酎が好きで、ウイスキーは苦手。「ふろおけ」に一つ貯めていた到来物のウイスキーを、みんなのまじって飲ませたと話していた。彼は、2コマ続きのマンションに住んでいて、一つのふろは使わないから、ウイスキー入れにしていたのである。

事務次官にはいろいろな誘いがかかるが、岩間は「君たちと話する方が面白い」と言って、「岩間パー」での懇談を続けた。

次官退任のときには、記者たちが大規模な送別会を催した。彼はその後、国立競技場を管理する団体の監事、さらに日本体育大学の学長を務めたが、そこにもNHK社会部の山本肇らとたびたびお邪魔して、酒を酌み交わした。

事務次官室で飲んだ日のこと。帰り支度をして1階のエレベーターホールに降りると、さっきまで次官室と一緒にいた大新聞政治部のN記者が、エレベーター前で大の字になって寝ているではないか。

記者仲間にはこういふ豪傑はいるもの。この記者は、特ダネを取るため、大蔵省印刷局に、浮浪者に変装して忍び込んだことがあると話していた。

岩間とは、76年の6月、埼玉県飯能市の久遠力クラブで、ゴルフをしたことがある。記者会からは私のほか毎日、読売、NHK、フジテレビの記者が参加、文部省幹部5人とプレーしたのだった。

・高村象平元慶応義塾塾長と格別の付き合い

教育課程審議会や中央教育審議会の会長を務めた、高村象平・元慶応義塾塾長とは、格別の付き合いをさせていただいた。実に洒脱な人であった。慶応の経済学者で、学生時代には福沢諭吉と面識があり、文相を務めた高橋誠一郎と、私が姻戚関係であったことも関係したかもしれない。誠一郎のことは後述する。

高村象平中教審会長に、新年企画のインタビューをした時のこと。適当な場所がないので、中教審を担当している官房審議官の部屋を借りて、1時間たっぷり話を聞いた。終わって記者会の席に戻り、取材メモを整理していると、加戸守行総務課長から電話。高村会長が、学校給食無用論をぶったそうだが、会長の了解を得るから書かないでくれという。どうやら審議官室の片隅にいた有能な秘書が、ご注文に及んだらしかった。私は、その無用論にくみする者でもないし、やむを得ない、しっかり賞しを作って、受け入れたのだった。

彼からは、こんな話を聞いた。入試面接で、ばかに右寄り、体制的なことばかりを言う者と出会う。あとで、親が料亭の主人であることを知って納得した。卒業式を控え、下痢に悩まされる。やむなくおしめをつけて卒業証書を渡したと。大学の教師がその「立場」を利用して教え子と結婚することなど許されないとも。彼は私たちを「〇〇君」と呼んだ。とても耳障りがよかった。

高村とは、鈴木勲大臣官房審議官、読売・社会部の山田寛と4人で、赤坂の天ぷら屋で食事をしたことがあった。銀座の交詢社で何回か水割りをごちそうになった。交詢社は明治初期、まだ「社交」という言葉がそれほど使われていなかった時代に、福澤諭吉の提唱により設けられた、日本最古の社交機関である。階段の踊り場に、諭吉の大きな油彩全身像が掲げられていたのが印象的だった。

・小・中時代の恩師たちの依頼に応える

文部省を担当して以来、毎年、小・中・高校の各校長会が主催する研究大会を取材するため、全国各地に出かけた。そこで恩師たちにお目にかか

ることができたのも、いわば余禄である。

何人かの恩師から、本を書いたから紹介してほしいとの依頼があり、私のメディアだけでなく、親しく付き合っていた朝日新聞社会部の山岸駿介・編集委員などに頼んで、記事にしてもらった。

国民学校1年の時の担任、渡辺義平・新発田市教育長からは「市に文化会館を建てるのに、起債枠が必要だが、それには文化庁の補助金が必要だ」とのことで、文化部長に力を貸してもらった。

中学校時代の音楽教師、今井誠一・全日本吹奏楽連盟理事長からは、「全日本吹奏楽コンクールの課題曲の著作権料が大きな負担になっている。何とかならないか」との相談。課題曲は、参加校のすべてが演奏するから、この1曲の権利負担が会連盟の重しになっているというのだ。文部省官房長を最後に退官し、親しくしていた加戸守行・音楽著作権協会理事長(のちに愛媛県知事)に陳情し、50%オフにしろという事で決着した。

イギリスの作曲家ベンジャミン・ブリテンに、「パースルの主題による青少年のための管弦楽入門」という作品がある。初演は、戦後間もない1946年のこと。楽器を学ぶには、またとない教材だ。恩師は、LPが出たまで間がなかった時期に、これをいち早く入手し、聞かせてくれた。後年、全日本吹奏楽連盟のトップになるのだから、並の音楽教師ではなかったのだろう。

このポストに付随した仕事に、教育奨励賞事務局の仕事があった。都道府県指定都市毎に1校を選び、その教育実践を支社・総支局の記者が記事にして、それをもとに教育学者などが審査。毎年2~3校に100万円を贈るほか、数10校を表彰する。11月初めに文部大臣にきてもらい、日本記者クラブなどで表彰式、パーティーを執り行う。本業の傍ら、これをスムーズに進めるのはなかなかの苦勞であった。

一民間企業の顕彰事業にそうそう付き合っていくことができない。それまで培った人脈を生かして、表彰行事の出席者を100人以上の規模に拡大した97年のこと、そのパーティーに、『内外教育』の50周年記念を合わせた祝宴を開催した。この時は、当時、理化学研究所理事長だった有馬朗人が、出張先からあいさつに駆け付けてくれるなど、著名な方たちが顔をそろえてくれた。

私が昼食に出るの1時過ぎ。日比谷図書館の前あたりで、国会方面からやってくる有馬とよく出会う。そして楽しい会話。なつかしい思い出。

毎年、1月上旬に社の新年互例会が催される。会場は帝国ホテルの宴会場。その日の午後には、経団連など経済3団体共催の新年祝賀パーティーがあり、その主要参加者が夕刻そっくりそのまま顔を出してくれるという寸法だ。招待客の相手をするため、たびたび駆り出された。文部大臣や官房長官を務めた森山真弓とは、柔道の事故で亡くなった彼女の長男に、陶芸の教材撮影で協力してもらったことがあるとか、彼女が関係する日本カメラ博物館の敷地(千代田区一番町)が、私の大叔父・小山九一(元昭和石油社長)の屋敷があったところだといった話をした覚えがある。

・NIEの専門委員として新たな活動

日本新聞協会が89年、新聞を教育に活用するNIE(Newspaper in Education)運動の取り組みを始める。編集局長からいばれば、協会に専門委員会が設置されるから、その専門委員になるよう指示される。会議に出てみると、現場に声をかければ、簡単についてきてくれるくらいに考えている人たちが多かった。販売の人たちは、部数増に利用しようという考えだ。

私は「将来のいい読者を育てるくらいの気持ちで気長に取り組まない」と話した。そして、「やり方は3つ。研究指定校を設ける、手引書を作る、研究大会を開催する、これらを柱に進めていこう」と提案し、その提案通りに進れる。4つの専門部会に分かれてこれらの事業が大きく進み、一定の成果を上げている。定年まであと5年ほどというタイミングであったらう

か、NIEの仕事をやっていたころ母校から、マスコミ論、新聞論について講義して欲しくないかという話があった。頭の体操にと1年分のシラバス(講義要目)を作成したりもした。村上政敏編集局長(のちに社長)に、週1回、講義に行くことを認めて欲しくないかと頼んでみたが、残念ながら見送らざるをえなかった。これが実現していれば、その後の人生は大きく変わっていただろうに、と思う。

98年8月30日から2日間、仙台市で開かれた第3回NIE全国大会で「NIEはいま-2002年の新教育課程に向けて」をテーマにパネルディスカッションが行われ、司会を務める羽目になる。これが全国すべての日刊紙に1ページ建てで報じられる。顔写真付きであった。この年の1月5日に兄が、3月30日に母が、相次いで亡くなり、この記事を見せることはかなわなかった。

この前年の9月19日昼過ぎ、珍しく兄・一夫からの電話。胃がんの告知を受けたから、新潟大学医学部のいい先生を紹介してほしいという。早速、文部省の医学教育課に依頼し、新潟大学医学部附属病院の事務部長に手はずを取ってもらった。9月30日入院、10月9日手術。スキルス胃がんだった。スキルス胃がんは粘膜から隆起することなく、粘膜の下をほうように広がっていく。初期では自覚症状がほとんどないのが特徴で、発見された時には、胃の粘膜の下で胃全体に広がっていることがしばしばあるというのだ。

11月22日、主治医の説明を受けたが、すでにウィルヒョウ転移があり、早ければあと1、2か月だ。これは、胃がんなどが左鎖骨の上のくぼみにあるリンパ節に転移することである。24日に一応退院させるということであった。

手術がうまくいって思っていた兄には、「体の調子を見ながら、当面やれることはやっておいだ方がい」というのが精いっぱいだった。12月2日に家の近くの病院に再入院、大みそかに外泊帰宅していた。

私は年初、見舞いに行き、そのままホテル滞在に、1月5日朝6時半ころ連絡があり、兄のもとに向かう途中、6時50分に亡くなった。兄が社長を務める会社の会議室を借りて葬儀の準備を進める。葬儀には、800人ほど来てくれただろうか。交友関係が広く、中には海外からという人もいた。日本新聞協会の会議で一緒にだった新潟日報のデスク、中・高校の3年後輩である塩沢拓夫に、死亡記事を出してほしいと頼むと、兄が新潟市の産業振興関係団体の副会長をしていたこともあり、立派な記事を書いてくれた。

その2か月余り後、3月21日、家内とともに母を訪ね、私が宿泊した宿で夕食をともにする。妹夫婦にも誘いをかけ、プリのしゃぶしゃぶを楽しんだのだった。帰ってから、25日夜と28日朝に、母と長電話。この母との食事、長電話は大切なものとなった。

30日に編集局会から出席に戻ると、レイアウトなど編集の実務を担当しているスタッフ、辻村剛子が「新潟にすぐに電話を」と。連絡をとると、母が3時過ぎにふろに入ったところ心臓発作に襲われ、「病院に運んだが、手遅れだった」という。死亡時刻は17時3分であった。留守中の手はずを整え、翌朝1番で新潟に向かい、母と対面。美しい顔だった。

葬儀には、文部大臣や文部事務次官、東京国立博物館館長などから花や弔電を頂戴したのだった。

次69号に続く・・・ご期待を

半生を報道人として生きて 私家版・私の履歴書

2020年7月1日発行 著者 高橋 守  
 発行所 高橋訓子  
 横浜市磯子区洋光台三丁目3番14号  
 sky60@kc5.so-net.ne.jp